

令和５年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業
（周辺地域と連携した広域観光ルートの開発による観光流動の活性化に係る調査事業）

-調査報告書-

令和６年２月
ランドブレイン株式会社

目 次

1 はじめに.....	1
1-1 本事業の背景と目的.....	1
1-2 事業の実施概要.....	1
1-3 過年度事業の振り返り及び今年度事業の意義.....	3
2 令和5年度における活動計画.....	5
2-1 各種会議における令和5年度の実施計画.....	5
2-2 令和5年度における活動計画.....	9
3 玄海町と広域の官民で構成される広域検討会の開催.....	10
3-1 広域検討会の実施概要.....	10
3-2 広域検討会における主な協議・意見内容.....	11
4 広域観光圏の観光事業者が集う共創会議の定例化に向けた事前準備.....	14
4-1 ヒアリング内容の要点.....	14
4-2 団体別ヒアリング内容.....	15
5 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議の開催.....	17
5-1 共創会議の企画.....	17
5-2 まとめニュース.....	19
5-3 参加者アンケート.....	21
6 共創プロジェクトの試行.....	25
6-1 共創プロジェクトの企画.....	25
6-2 実施報告.....	28
6-3 参加者アンケート.....	30
6-4 実施結果のポイント.....	38
7 広域観光圏の魅力の情報発信方法・推進体制の検討.....	39
7-1 セールスツールの作成・営業活動の試行.....	39
7-2 広域観光の推進体制の検討.....	41
7-3 広域観光圏の魅力の情報発信.....	42
8 日本の地方における広域観光の先進事例調査.....	43
8-1 先進事例調査の企画.....	43
8-2 視察のポイント、意見交換の内容.....	44
9 中期活動方針.....	45
9-1 令和6年度以降の活動方針・計画.....	45
9-2 令和6年度において取り組むべき重点事項.....	46

Ⅰ はじめに

Ⅰ-Ⅰ 本事業の背景と目的

玄海原子力発電所の立地自治体である玄海町は、観光資産として平成 11 年に日本の棚田百選に選定された「浜野浦の棚田」を有しており、ゴールデンウィーク期間を中心に多くの写真愛好家等が来訪している。一方で、町内に消費の受け皿が少なく、また時期もゴールデンウィークに集中するなどの課題がある。来訪者が少ない冬場にイルミネーションを設置するなどの取り組みを行い増加傾向にあるものの、年間を通じた観光流動の拡大や消費促進による地域経済への波及効果を高めることが課題となっている。

町では令和 2 年度、観光戦略を策定し、観光施策を進めているが、交流人口の拡大には、町単独では観光資産や人的リソースが十分ではないという課題があり、その解決のために、玄海町を含む広域観光圏について、

- (1) 現状把握やポテンシャル調査などのマーケティング分析、地元観光関連事業者との協議
- (2) 周辺自治体と連携した広域観光の可能性と持続可能な観光事業についての検証
- (3) 周辺自治体との体制づくりや広域観光ルート開発、プロモーション活動等

を段階的に進めていくことが求められている。

そのために、令和 2 年度～令和 4 年度事業に引き続いて、九州経済産業局では、広域連携による観光振興のための取り組みを支援するとともに、魅力ある観光ルートの開発や受入れ体制構築に必要な調査事業を行うことを目的とする。

Ⅰ-2 事業の実施概要

本事業は以下について検討・実施を行った。

① 玄海町と広域の官民で構成される広域検討会の開催

玄海町と唐津市、観光協会等の広域の観光振興に係る官民で構成される広域検討会を立ち上げ、作成しているロードマップに基づき、アドバイザー又は実践者（以下「専門家」という。）によるアドバイスをもとに、令和 5 年度の活動計画を策定するほか、令和 2～5 年度活動の総括を行い、令和 6 年度以降の中期的な活動方針、令和 6 年度の活動計画を策定する。

また、令和 5 年度の活動計画は、③広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議の開催、④共創プロジェクトの試行、⑤広域観光圏の魅力の情報発信方法・推進体制の検討とし、③、④、⑤の各取り組みの進捗にあわせて、広域検討会の構成メンバーに適宜報告を行うものとする。

会議の回数は 3 回程度とし、開催方法について、参集によることを想定しているが、効率的な運営のためや新型コロナウイルス等による社会情勢等により九州経済産業局及び玄海町と協議の上、書面や WEB（「Cisco Webex Meetings」、「Microsoft Teams」の何れかを利用）も可能とする。

なお、広域検討会の具体的な参加者や運営方法は、九州経済産業局、玄海町と協議の上決定するが、効果的なメンバー構成（専門家は 2 名以上をメンバーに含めること）や効率的な運営方法がある場合は提案できることとする。

② 広域観光圏の観光事業者が集う共創会議の定例化に向けた事前準備

③の共創会議を開催するにあたり、広域観光圏エリア内における観光関連事業者（観光施設・宿泊施設・飲食店・直売所等の物販施設など）の実態を把握し、会議で取り上げるテーマを決める。また、

共創会議の定例化に向け、玄海町内の地域商社が中心となり、地域が主体となって取り組む体制づくりを行う。

③ 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議の開催

広域観光圏の基本エリアに立地する観光関連事業者（観光施設・宿泊施設・飲食店・直売所等の物販施設など）等と呼び掛けて、エリア一体となった持続可能な観光地域づくりに向けて、令和4年度と同様に今後の連携プラットフォームとなる共創会議の定例化を目指し、1回程度開催する。参加者については、20名程度を想定。

共創会議のプログラムは、⑥日本の地方における広域観光の先進事例調査結果の共有、エリア内で注目される観光の取り組みに光を当てた事業者紹介、専門家を招いた勉強会、各事業者の活動情報の共有に加えて、参加事業者同士のコラボレーション事業や他地域との連携（ネット販売による他県との連携など）による新たなコンテンツを創出するためのアイデアワークショップ等を他地域での取組事例を踏まえ開催し、その結果を基に具体的な誘客手法として共創プロジェクトを1件以上立案する。立案に際しては、観光関連事業者の意向及び専門家の助言を取り入れ、具体的な誘客手法の検討を踏まえた、プロジェクト組成となるよう支援を行うものとする。

開催にあたっては、30名程度を収容できる施設を必要な機材等を含めて1日借り上げるものとし、参加者の交通利便性等を考慮して最も妥当な場所とする。また、参加募集は、九州経済産業局や玄海町と調整を行う方法によるほか、より効率的な方法がある場合は提案を行うものとする。

また、参加者との日程調整、連絡、会場確保、旅費・謝金の支払い等、会議の開催に係る一切の事務的な業務を全て行うこと。また、共創会議の開催前に当日の資料一式を事前に作成・準備するとともに、開催後は議事録を作成の上、保存する。

なお、共創会議については、企画概要、プロジェクト内容、会議結果等を随時①の広域検討会の構成メンバーへ情報提供すること。

④ 共創プロジェクトの試行

③で検討した共創プロジェクトを観光関連事業者等と調整の上、試行する。また、試行結果に基づき改善点や課題等の整理を行い、地域で継続して実施できるよう上記会議で観光関連事業者等にフィードバックするものとする。

⑤ 広域観光圏の魅力の情報発信方法・推進体制の検討

地域が主体となって旅行会社等向けに広域観光圏の魅力をより効果的にPRし、観光誘客につなげるため、広域観光圏内における観光関連事業者の情報発信方法・推進体制を検討し、その検討結果を基に情報発信を行う。

⑥ 日本の地方における広域観光の先進事例調査

町内事業者の広域観光への成功イメージを明確化し、今後の事業の参考にするため、全国の広域観光の先進事例の調査を行う。調査方法としては、Webサイト等の利用または現地視察により実施するものとする。

1-3 過年度事業の振り返り及び今年度事業の意義

- 本事業は、原発施設立地地域の玄海町だけでなく、唐津市などの周辺地域との連携に向けて、**「九州経済産業局が主導・声掛けすることで、玄海町と唐津市のスムーズな地域連携」を促し、**ひいては、**立地地域とその周辺地域の地域振興の実現を図ることが目的であると認識**

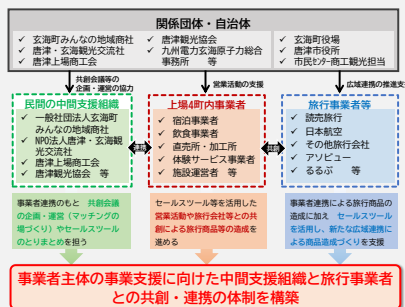
【令和2年度の成果】⇒広域観光を推進する上での方向性や体制等の基盤づくり

- 広域観光のキックオフの場として、広域検討会のほか、玄海町やその周辺市町の事業者・関係団体(11名)との勉強会を開催し、広域観光ルートづくりを進める体制基盤を構築
- 広域観光のコンセプト、モデルルート、商品パッケージ等、広域観光推進のイメージを構築
- R2 から R5 以降の取組みごとの広域観光推進に向けたロードマップを検討



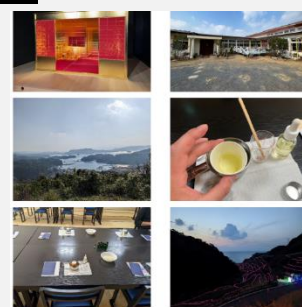
【令和3年度の成果】⇒旅行商品造成、共創会議の構築等、広域エリアにおける共創基盤の構築

- エリア内の 150 のコンテンツを掘り起こし、旅行商品造成・情報発信に向けた情報基盤を整理
- 観光専門家が参加するモニターツアーの試行による、可能性の発見と専門家ネットワークの構築
- 広域観光及び共創会議の推進体制・取組意義や具体事業等について、関係団体等との協議を行いながら一定の方向性を検討(新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、共創会議の実施には至らなかったものの、関係者等には共創会議の目的・メリット等を説明し、次年度の共創会議に向けた準備を整えた)



【令和4年度の成果】⇒玄海町の地域商社との連携をもとに、共創モデルを試行

- 上場地域の観光関連事業者に向け、事業者間での連携可能性・課題等についてヒアリング実施(主な意見として・・広域連携を進める上での”旗振り役”がない／共創会議とオールげんかいミーティングとのすみ分けが必要／新しいことをはじめる人はいるがつながりがない 等)
- 共創会議を開催(3回)し、議論を通じて創出された「共創プロジェクト」を試行
- 広域観光の推進に向け、玄海町のプレイヤー・コーディネーターとしての「玄海町みんなの地域商社」との具体的な連携の形づくり



【今年度事業(令和5年度)の目的理解】

- 令和2～4年度の3か年にわたり構築してきた広域エリアでの共創事業について、本事業として果たすべき役割を改めて整理した上で、上場地域での共創の道筋を関係者とともに構築する
- 昨年度までに共創の形が見えてきた部分を活かし、今年度は**「取組主体は地域であり、地域主体の活動の道筋を描くこと(特に活動の中核となる地域商社を主語に)」と「事業に協力する地域としての期待成果(”自地域の振興につながる点”と”広域で戦った方がより効果的な点”)を明確にすること」**に主眼を置きながら事業を進めていくことが鍵となると理解している

■仕様書での目的(抜粋)

玄海原子力発電所の立地自治体である玄海町は、観光資産として平成 11 年に日本の棚田百選に選定された風光明媚な「浜野浦の棚田」を有しており、ゴールデンウィーク期間を中心に多くの写真愛好家等が来訪している。一方で、町内に消費の受け皿が少なく、また時期もゴールデンウィークに集中するなどの課題がある。来訪者が少ない冬場にイルミネーションを設置するなどの取り組みを行い増加傾向にあるものの、年間を通じた観光流動の拡大や消費促進による地域経済への波及効果を高めることが課題となっている。町では令和2年度、観光戦略を策定し、観光施策を進めているが、交流人口の拡大には、町単独では観光資産や人的リソースが十分ではないという課題があり、その解決のために、玄海町を含む広域観光圏について、

- (1)現状把握やポテンシャル調査などのマーケティング分析、地元観光関連事業者との協議
- (2)周辺自治体と連携した広域観光の可能性と持続可能な観光事業についての検証
- (3)周辺自治体との体制づくりや広域観光ルート開発、プロモーション活動等を段階的に進めていくことが求められている。

そのために、令和2年度から令和4年度事業に引き続いて、九州経済産業局では、広域連携による観光振興のための取り組みを支援するとともに、魅力ある観光ルートの開発や受入れ体制構築に必要な調査事業を行うことを目的とする。

■事業の先に目指すもの

旧上場4町の広域観光圏で、観光客が滞在時間と消費額を延ばすこと

■そのため今年度の本事業では主に以下を実施

- ① 広域連携の足掛かりとなり、地域で継続できる共創プロジェクトを試行すること
- ② 共創会議の定例化も見据え、玄海町内の地域商社や地元の事業者が主体となって取り組む体制づくりを行い、地域のプレイヤーの発掘・連携を図ること
- ③ 広域観光への成功のイメージを明確化し、今後の事業の参考にするため、上場地域における広域観光のコアプレイヤーとともに全国の広域観光の先進事例視察を行うこと

■本事業における配慮点

① 広域連携におけるコアプレイヤーに玄海町みんなの地域商社を位置付けるなかで、地域連携 DMO など推進役としての成長目標を描き、関係者で共有すること

地域商社に「広域連携の推進役」を求めるには、その役割を担える立ち位置をロードマップ等に明確に位置付け、関係者間で共有することが重要である。例えば地域連携 DMO として登録されることで、唐津市との連携が更にとりやすくなるだけでなく、モデル事業の実施主体等になることで、新たな試みにチャレンジしやすくなる。その結果、人材不足や自主事業(収益事業)化といった商社の顕在的課題にも対応しつつ、広域観光の活性化につなげることが期待できる。

② 地域内外での地域商社の認知を広げ、上場地域の観光情報が集約される組織となるよう、地域と市場をつなぐコーディネートを試行すること

浜野浦の棚田といった窓口のない観光スポットは、旅行会社のツアー等での採用状況が地域に知られていないことに加え、立ち寄りのみに留まり地域にお金落ちる仕組みができていない。観光客に充実した上場地域滞在を提供するためには、まずは旅行会社に地域商社の存在を知ってもらうことが必要である。本事業を通じて、地域商社のコーディネーターとしての企画力向上やセールスツールづくりといった取組みが求められている。

③ 実施主体として事業者との関係構築を図り、次のチャレンジに向けた素地をつくること

過年度事業のモニターツアーで実施した漁船クルーズは、地域商社が企画のブラッシュアップを支援し、今年度玄海町のイベントで商品化され約 60 人が利用するなど、着実な成果につなげている。本事業においても、実践と検証を地域商社が担い、事業者と連携して進めることで、次に向けたチャレンジにつなげる素地づくりを重視する。

2 令和5年度における活動計画

2-1 各種会議における令和5年度の実施計画

令和5年度の活動計画について定め、以下の実施計画に基づき各種会議を予定・実施した。

(1) 広域検討会における実施計画

① 実施計画概要

検討会の位置づけ・目的		事業者や関係者の意向、共創会議の結果、共創プロジェクトの企画・試行結果、セールスツールの検討などを踏まえ、広域観光の推進に向けた次年度以降の活動の方向性や事業者による持続的・自発的な観光を推進するプラットフォームづくり（推進体制）等について、上場エリアの各関係者（下記参照）と協議・検討する。
参加者	自治体	○ 玄海町（企画商工課） ○ 唐津市（観光課）
	関係団体	○ 一般社団法人玄海町みんなの地域商社（以下、地域商社と呼称） ○ NPO 法人唐津・玄海観光交流社（以下、交流社と呼称） ○ 一般社団法人唐津観光協会（以下、観光協会と呼称） ○ 唐津上場商工会（以下、商工会と呼称）
	アドバイザー	○ 大方 優子 教授【アドバイザー】 ○ 本田 正明 准教授【アドバイザー】
	事務局	○ 九州経済産業局 ○ ランドブレイン株式会社（吉山ほか、社員）【コーディネーター】
実施会議・時期		主な協議内容
第1回	令和5年 9月7日	【説明・報告】 ○ 広域観光ルート事業の目的・意義 ○ 過年度の取組みの振り返り（ロードマップ更新版） ○ 令和5年度の全体スケジュール ○ 各種取組み概要、11月以降の取組みイメージ 【協議事項】 ○ 共創会議について ○ セールスツールについて ○ 先進地視察について
第2回	令和5年 11月21日	【説明・報告】 ○ 共創会議について 【協議事項】 ○ 共創プロジェクトについて ○ セールスツールについて ○ 推進体制について
第3回	令和6年 2月13日	【説明・報告】 ○ 先進地視察・共創プロジェクトの実施報告 【協議事項】 ○ 中期の具体活動方針、次年度の取組内容 ○ 広域観光の推進体制（上場地域の情報発信）

② アドバイザーおよびコーディネーター

アドバイザーおよびコーディネーターを以下に定め、検討会の運営を行った。

氏名・肩書	業務内容に関する専門知識・知見	検討会議における役割 支援の視点等
おおかた ゆうこ 大方 優子 九州産業大学 地域共創学部 観光学科 教授	観光学を専門とし、観光者の行動・心理、観光産業におけるマーケティングの研究を行っている。福岡県観光審議会委員を務めた経験を有するほか、観光の専門家として、福岡県内を中心に多くの自治体で審議会委員等を務める。 ※令和２年度～４年度における本調査事業アドバイザー	【アドバイザー】 ○広域観光のあり方、観光事業の方向性に係る助言等 ○その他観光政策全般に係る助言等
ほんだ まさあき 本田 正明 九州産業大学 地域共創学部 観光学科 准教授	福岡県糸島市在住。地域に通いながら生活者の目線で、新たな暮らし方やなりわいをプロデュースする。地域資源を活用した学生のコミュニティビジネス事業など産学連携プロジェクトにも取り組む。 個人活動として、地場企業や集落などから相談を受け、地域事業のプロデュースを行っている。福岡県糸島市野辺・福の浦地区では、地区計画の策定と合わせて、地域の資源である「甘夏」を活用したプロジェクトを立ち上げ、九州大学の学生が事業主体となり、自分たちが出せる範囲での出資で事業モデルを構築し、夏休み限定のかき氷販売を行っている。かき氷は、学生たちが甘夏のシロップづくりから手づくりで行っている。 また、糸島市では漁村集落の空き家を活用した地域住民のたまり場づくりを行っており、空き家のオーナー、地元の菩提寺である「海徳寺」と空き家の管理組織を立ち上げ、改修などを実施。社会福祉法人「志摩園」と連携し、月２回ほど地域の高齢者が集い交流するサロン「おこもりカフェ」を実施している。	【アドバイザー】 ○観光推進に向けたプロジェクト組成等の助言 ○情報発信や推進体制（営業活動・戦略等）への助言
よしやま じゅんこ 吉山 淳子 ランドブレイン株式会社 福岡事務所 主任	観光計画・戦略策定業務においては、コロナ禍における観光計画(R2 福岡県うきは市、R4 福岡県芦屋町)、広域連携による観光戦略の策定・事業試行支援(H29～30 福岡県・九州離島広域連携協議会)、地域ブランド×観光ロードマップの検討(鹿児島県南九州市)などの業務に従事。一次産業振興、地域拠点形成構想、人材育成などの業務主担当者として、多岐にわたる地域活性化支援において、地域の事業者や住民主体の活動支援経験を有する。	【コーディネーター】 ○会議の進行・運営等コーディネート ○観光の推進体制構築等に係るコーディネート

(2) 共創会議における実施計画

① 実施計画概要

意見交換会の 位置づけ・目的		○ 広域観光圏の基本エリアの観光関連事業者が集い、上場地域の広域観光を具体的に進めるための対話機会を創出。 ○ 対話のきっかけとして地域内の事業者の取組み事例を紹介し、共創プロジェクトを通じた滞在時間の延伸・観光消費額の向上へのつなげ方についてアイデアワークショップ等を実施するもので、以下3点が開催する意義である。 【①気づきにつながる場】 身近な取組み・先駆的な取組みから学ぶ 【②共創プロジェクトを磨く場】 共創プロジェクトをみんなでブラッシュアップ 【③関係づくりにつながる場】 目的・目標が共感できる仲間を発掘
参 加 者	事業者	○ 旧上場4町における観光施設・宿泊施設・飲食店・直売所等の物販施設などの事業者 ※玄海町や地域商社、観光協会、商工会等から事業者へ呼びかけを行う
	関係団体	○ 観光協会 ○ 商工会
	アドバイザー ファシリテーター 事務局	○ 玄海町（企画商工課） ○ 唐津市（観光課） ○ 地域商社 ○ 本田 正明 氏【アドバイザー】 ○ 林 康紀 氏【ゲストスピーカー】 ○ A 氏【グラフィックレコーダー】 ○ 九州経済産業局 ○ ランドブレイン株式会社（吉山ほか、社員）【コーディネーター】
実施時期		主な会議内容
令和4年 1月17日		1 開会(14:00～14:05) ・挨拶、共創会議の目的、会議の流れ 2 メイン企画①(14:05～15:15) ・ゲストスピーカートーク(林氏・商社橘高氏とのクロストーク)+質問・感想 3 メイン企画②(15:15～15:50) ・宿泊客に提供したいサービスや情報のアイデア交換 4 告知・アンケート(15:50～16:00) ・今後の展開 ・次回集まる場（共創プロジェクトについて） ・参加者や関係団体等から告知事項（PR タイム） ・挨拶

② アドバイザーおよびコーディネーター

アドバイザーおよびコーディネーターを以下に定め、意見交換会の運営を行った。

氏名・肩書	業務内容に関する専門知識・知見	意見交換会における 役割 支援の視点等
ほんだ まさあき 本田 正明 九州産業大学 地域共創学部 観光学科 准教授	福岡県糸島市在住。地域に通いながら生活者の目線で、新たな暮らし方やなりわいをプロデュースする。地域資源を活用した学生のコミュニティビジネス事業など産学連携プロジェクトにも取り組む。 個人活動として、地場企業や集落などから相談を受け、地域事業のプロデュースを行っている。福岡県糸島市野辺・福の浦地区では、地区計画の策定と合わせて、地域の資源である「甘夏」を活用したプロジェクトを立ち上げ、九州大学の学生が事業主体となり、自分たちが出せる範囲での出資で事業モデルを構築し、夏休み限定のかき氷販売を行っている。かき氷は、学生たちが甘夏のシロップづくりから手づくりで行っている。 また、糸島市では漁村集落の空き家を活用した地域住民のたまり場づくりを行っており、空き家のオーナー、地元の菩提寺である「海徳寺」と空き家の管理組織を立ち上げ、改修などを実施。社会福祉法人「志摩園」と連携し、月２回ほど地域の高齢者が集い交流するサロン「おこもりカフェ」を実施している。	【アドバイザー】 ○観光推進に向けたプロジェクト組成等の助言 ○情報発信や推進体制（営業活動・戦略等）への助言
よしやま じゅんこ 吉山 淳子 ランドブレイン株式会社 福岡事務所 主任	観光計画・戦略策定業務においては、コロナ禍における観光計画(R2 福岡県うきは市、R4 福岡県芦屋町)、広域連携による観光戦略の策定・事業試行支援 (H29～30 福岡県・九州離島広域連携協議会)、地域ブランド×観光ロードマップの検討(鹿児島県南九州市)などの業務に従事。一次産業振興、地域拠点形成構想、人材育成などの業務主担当者として、多岐にわたる地域活性化支援において、地域の事業者や住民主体の活動支援経験を有する。	【コーディネーター】 ○会議の進行・運営等 コーディネート ○観光の推進体制構築等に係るコーディネート

2-2 令和5年度における活動計画

令和5年度における活動計画は以下のとおりである。

実施内容	令和5年					令和6年	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
広域検討会の開催							
広域検討会の開催	【第1回 協議事項】 1. 過去3年の事業成果の振り返り 2. 今年度の活動計画について		【第2回 協議事項】 1. 共創会議結果および共創プロジェクト企画 2. セールスツールの案案、推進体制 3. 次年度以降の活動方針		【第3回 協議事項】 1. 共創会議、プロジェクトの試行を踏まえた展開 2. 情報発信方法 推進体制の具体的な方向性 3. 次年度以降の具体活動方針と次年度の取組		
次年度以降の活動方針の策定		第1回 9/7		第2回 11/21	反映	R6以降の活動方針の策定	修正等
共創会議の開催		反映		反映			反映
共創会議の定例化に向けた事前準備			事前ヒアリング	反映			
共創会議の開催		企画検討	10/25	結果整理 情報共有			
共創プロジェクトの試行		反映					
広域観光の先進事例調査		企画調整			12/8	結果整理 資料提供	
共創プロジェクトの試行		企画調整		企画具体化準備		1/16	検証/方向性 検討 2/19
上場地域の魅力の情報発信方法・推進体制の検討							
セールスツールの作成 営業活動の試行			案案作成 試行		反映		
広域観光の推進体制の検討			体制案検討			反映	

3 玄海町と広域の官民で構成される広域検討会の開催

広域検討会は、本事業の各取組の進捗状況にあわせて開催し、昨年度事業においてもアドバイザーを務めた大方氏や多様な主体とのプロジェクト組成に精通する本田氏に、本事業における各業務の計画や、広域観光の推進に向けた活動の方向性について助言を頂きながら会議を行った。

3-1 広域検討会の実施概要

検討会の実施日時、会場、参加者、協議内容は以下のとおりである。

	実施日時 会場	参加者	協議次第
第1回	令和5年 9月7日 (木) 15:00 ～ 17:10 玄海町役場 第4会議室 及び WEB (Teams)	○ 玄海町（企画商工課）：3名 ○ 唐津市（観光文化課）：1名 ○ 地域商社：3名 ○ 交流社：2名 ○ 観光協会：1名 ○ 商工会：1名 ○ 大方 優子 氏（WEB 参加） ○ 本田 正明 氏 ○ 九州経済産業局：3名 ○ ランドブレイン株式会社：4名	1. 開会 ① あいさつ ② 広域観光ルート事業の目的・意義 ③ 参加者自己紹介 ④ アドバイザー紹介 2. 報告・共有事項 ① 過年度の取組みの振り返り ② 令和5年度の全体スケジュール ③ 各種取組み概要、11月以降の取組みイメージ 3. 協議事項 ① 共創会議について（企画方針、プログラム、開催日時、募集の流れ） ② セールスツールについて（目的、旅行会社への営業状況の共有） ③ 先進地視察（目的、実施時期） 4. その他（今後のスケジュール等） 5. 閉会
第2回	令和5年 11月21日 (火) 13:00 ～ 15:10 玄海町役場 大会議室 及び WEB (Teams)	○ 玄海町（企画商工課）：2名 ○ 地域商社：1名 ○ 観光協会：1名 ○ 大方 優子 氏（WEB 参加） ○ 本田 正明 氏（WEB 参加） ○ 九州経済産業局：2名 ○ ランドブレイン株式会社：3名	1. 開会 ① あいさつ ② 本日の議題・資料確認 2. 報告・共有事項 ① 第1回広域検討会の振り返り ② 共創会議の実施報告 3. 協議事項 ① これまでの振り返り ② 共創プロジェクトについて ③ セールスツールについて ④ 推進体制について 4. その他（今後のスケジュール等） 5. 閉会

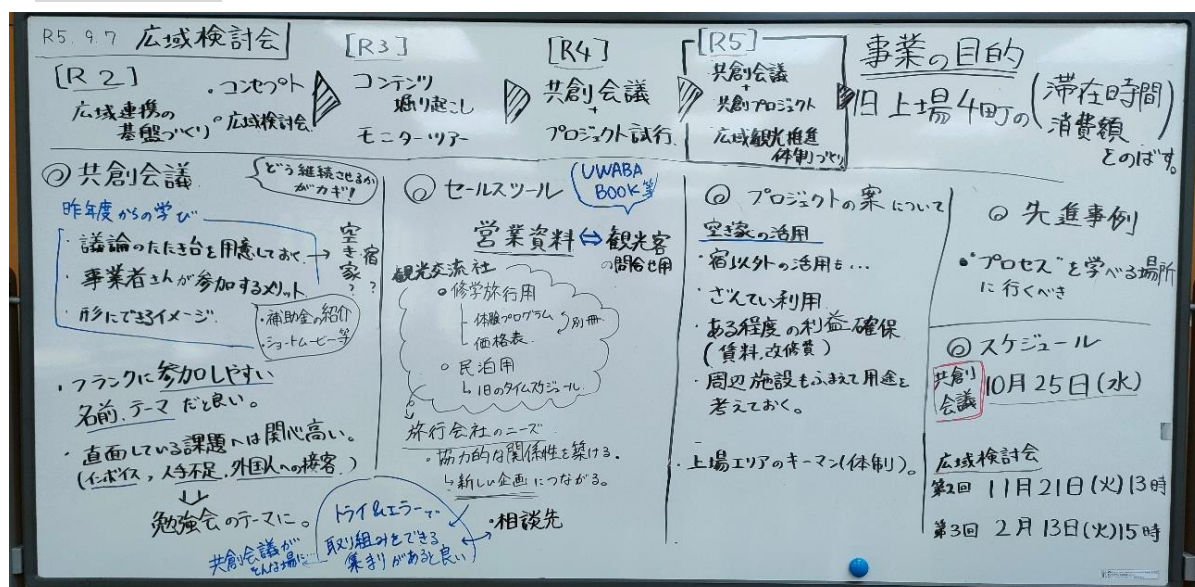
	実施日時 会場	参加者	協議次第
第3回	令和6年 2月13日 (火) 15:00 ～ 17:00 玄海町役場 3階第3・4 会議室	○ 玄海町（企画商工課）：3名 ○ 地域商社：3名 ○ 観光協会：1名 ○ 商工会：1名 ○ 大方 優子 氏（WEB参加） ○ 本田 正明 氏 ○ 九州経済産業局：2名 ○ ランドブレイン株式会社：4名	1. 開会 ① あいさつ ② 本日の議題・資料確認 2. 報告・共有事項 ① 第2回広域検討会の振り返り ② 先進地視察・共創プロジェクトの実施報告 3. 協議事項 ① 広域観光の推進体制（上場地域の情報発信） ② 中期の具体活動方針、次年度の取組内容 4. その他（次年度以降の方向性） 5. 閉会

3-2 広域検討会における主な協議・意見内容

検討会における意見・協議のうち、主なポイントについて以下に示す。

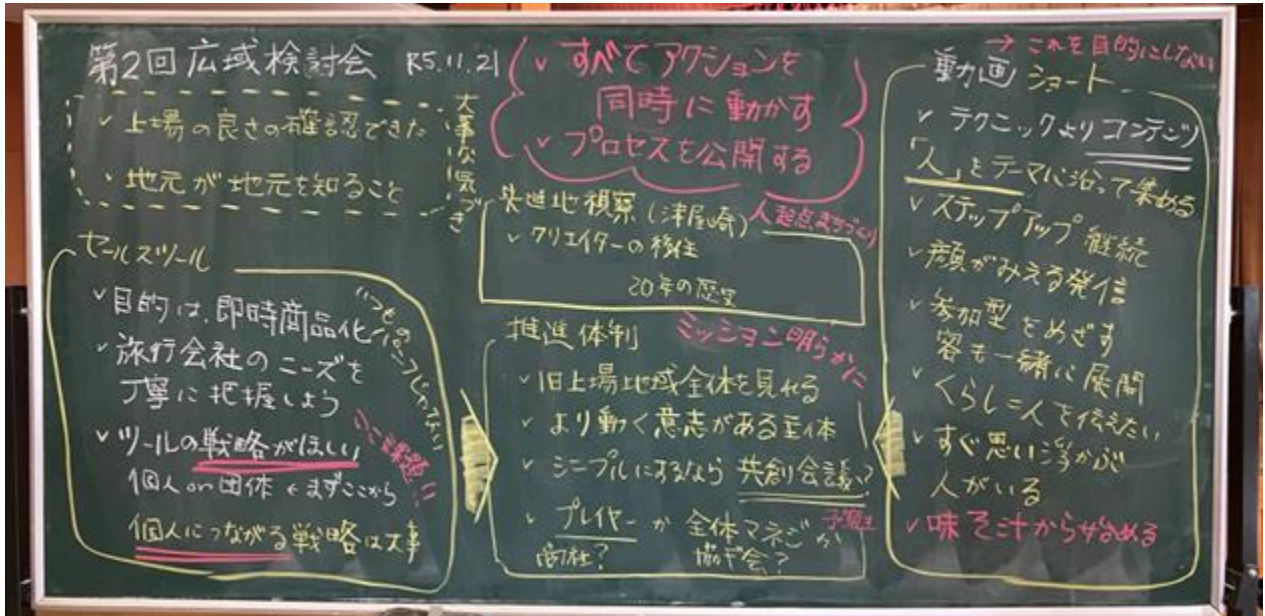
【第1回広域検討会】主な協議結果・意見内容

- 本事業の目的は、旧上場4町の観光に関する滞在時間と消費額を延ばすこと。
- 共創会議は、事業者が参加メリットを感じる内容と抱き合わせで、全体企画すること。
- 共創プロジェクトで想定する空き家改修は、宿泊施設に限定せず、キッチンの食事会利用など、暫定的な活用もできる拠点として検討し、家賃を含む事業収支を詰めること。
- 先進事例調査は、空き家の観光活用だけを見るのではなく、プロジェクトが地域で生まれた背景や合意形成のプロセス、中心となったキーマンの存在にも着眼できる企画とすること。
- セールスツールは、ターゲットと使い方を明確にしたうえで、作成にとりかかること。



【第2回広域検討会】主な協議結果・意見内容

- 共創プロジェクトは、テクニックだけでなく着眼するコンテンツや広げ方を考える場として勉強会を開催し、共創会議のアイデアを形にする活動を行いながら動画制作に取り組む。
- セールスツールは、個人旅行につなげるなどバス旅行後の展開を戦略化し作成する。
- 推進体制は、広域観光事業における一番コアな活動を絞り込み、全体マネジメント役とプレイヤーの両輪を検討する。



【第3回広域検討会】主な協議結果・意見内容

- 今年度の共創プロジェクトで展開されたように、共創会議から生まれたアイデアをもとに小さな活動体をつくり、地域でリーダーシップを取れる事業者からテーマに関心のある事業者がゆるやかに集える場づくりを続けていく。小さくても楽しい場を継続した先に成果が生まれるよう、地域商社を中心に機会をつくっていく。
- 推進体制として、地域商社が核となり、民間事業者の事業活動の支援につなげる活動を企画・実行する。事業者への周知・案内や成果の情報発信等について、唐津観光協会や唐津上場商工会、唐津・玄海観光交流社は地域商社と引き続き連携する。また、玄海町・唐津市の行政をまじえた広域検討会を継続し、各主体の取組みを情報共有することを重視する。
- 今後も継続される主な会議体は3種。「広域検討会」は上場地域全体の観光戦略を考えて推進する場(局と玄海町・唐津市が先導)、「共創会議」は上場エリアで事業者同士が交流し、顔の見える関係となる場(地域商社など民間が先導)、「事業者同士の集まり」は動きを生み出す小さな活動を生み出す場(地域商社など民間)。当面は局事業を活用し、第3者を交えた広域検討会を行っていくが、徐々に地元側で担うことのできる範囲を増やしていく。
- 観光客のターゲットは、団体から個人へシフトしていく。「観光ルート」ではなく「地域内の観光スポット」など、目標の変化にあわせて、取組の表現を変えていくとよい。広域だからこそ取り組むメリットという軸をぶらさずに活動を継続しながら、観光に起きる変化を柔軟に取り入れていくとよい。

R5 広域検討会 第3回

◎津基崎アランチの概要

- ✓ 地域の「アランチ」の役割を明確に
- ✓ 観光客との関係性を高める
- ✓ 地域の魅力を最大限に引き出す

◎ショート動画制作会

- ✓ 参加者同士での交流を促進
- 第2回開催予定!!
- ✓ 各業者が主体的に参加を促す
- 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- 各業者が「見とろ」ことばをテーマに

◎セールスツーマン(若)

- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに

これから

Point

- ・民間(中間支援組織)が主体に
- ・数回の検討等は行政に依頼

推進体制・役割

【観光協会】

- ✓ 情報発信

【商工会】

- ✓ 各業者の呼びかけ

【地域振興】

- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに

【玄海町】

- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに

【唐津市】

- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- ✓ 各業者が「見とろ」ことばをテーマに

目的：旧上場町の「滞在時間」「消費額」を伸ばす。

(ロイロマーケティング)

- 団体・個人へのアプローチ
- 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- 各業者が「見とろ」ことばをテーマに
- 各業者が「見とろ」ことばをテーマに

官

広域検討会

大町会議

各業者同士の集まり

民

4 広域観光圏の観光事業者が集う共創会議の定例化に向けた事前準備

共創会議は広域観光を推進するための中核事業の実施・継続により、「広域観光の効果を広げるための検討の場」である。そのため、広域観光の中核事業（＝共創プロジェクト）の企画は基幹組織である地域商社とともに案を検討し、玄海町・唐津市からの意見も踏まえ、企画内容に応じた実行体制の構築を事前準備のなかで行った。

あわせて、「広域観光の効果を広げる」ことに関しては、上場地域の関連事業者だけでなく、旧唐津市内で観光に取り組む事業者についても、情報発信等で連携を進めることが重要である。そのため、上場地域・旧唐津市の観光関連事業者を支援する中間支援組織を対象に、エリア内の取組み状況・今後の取組み方針、これらに係る課題等を把握するため、ヒアリングシートへの記入を依頼した。回答内容は、共創会議で議論する内容を検討するとともに、共創会議のプログラム検討に活用した。

4-1 ヒアリング内容の要点

観光・交流に関連する事業者支援事業	● 商品のブランディング支援から旅行商品造成の助成など「<u>事業者が主体となる取組みへのサポート</u>」から、修学旅行の受け入れにおける体験の提供、イベントへの出店、事業者向けセミナーなど「<u>団体が核となり事業者の活動のバックアップ</u>」など、事業者支援の枠組みも多様なあり方がある。 ● また、民泊や高校における県外出身者の生徒の受け入れなど、<u>一般家庭とも連携しながら「外の人に地域の魅力を知ってもらう活動」</u>もある。
団体として上場地域内の連携に期待すること	● <u>町・業種・年齢などを越えた事業者間の連携</u>を促進し、新たな事業や観光客の滞在時間の延伸につなげていきたい。 ● また、事業者間だけでなく、<u>各団体・各地域が持つ情報共有</u>も重要である。情報共有が別の団体の事業に活かされたり、また団体間で共通する課題があれば解消に向けた新たな事業の組成につなげられるとよい。 ● さらに、若者を受け入れやすくする・若者が活動しやすくなる・高校生など子どもたちが地域のために行動を起こす機会をつくることを、<u>観光を通じて実践し、未来を見据えた活動</u>も起こしていきたい。
上場地域の広域観光の推進にあたり、解消していきたい課題や取り組みたいこと等	● <u>観光客の広域周遊の促進と、観光を通じた各事業者のビジネスの強化</u>の両輪が必要である。 ● 観光客に対しては、情報発信や PR、食を核にした上場らしい魅力づくり。事業者に対しては、広域観光の目標や目指す姿を誰にでもわかりやすい言葉にするなど、意識醸成が進むようにしていきたい。

4-2 団体別ヒアリング内容

各位

上場広域観光の推進に向けたヒアリングシート

上場地域における広域観光の推進に向けたヒアリングにご協力ください。回答内容は、今後の広域観光推進の取り組みの検討に活用させていただきます。

下記にご記入いただき、**10月23日(月)**までに、下記までご返送いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. 貴団体の実施する、事業者支援を行う事業についてお聞かせください。

--

2. 貴団体として、上場地域内の連携に期待することをお聞かせください。

--

3. 上場地域の広域観光の推進にあたり、解消していきたい課題や取り組みたいこと等、自由にご記入ください。

--

4. 10月25日開催の共創会議で、参加者(観光関連事業者)に告知・周知したいことがあればご記入ください。

--

ご記入ください。

所属事業所名・団体名

氏名

ご連絡先(電話番号)

(メールアドレス)

10月25日の共創会議への参加者氏名

※ヒアリングシートご記入後、玄海町みんなの地域商社(奥村、橘高)にお送りください。

メール:info@all-genkai.or.jp

FAX:0955-51-3008

団体名	観光・交流に関連する事業者支援事業	団体として上場地域内の連携に期待すること	上場地域の広域観光の推進にあたり、 解消していきたい課題や取り組みたいこと等	共創会議で参加者(観光関連事業者)に 告知・周知したいこと
団体 A	玄海町事業者に対する催事等の出店補助、販売商品磨き上げ、事業者紹介のミニリーフレット作成など地域事業、 <u>商品のブランディング</u> に力を入れる。観光分野では地域性を生かした <u>体験観光による人の呼び込み</u> や、玄海町において昔から行われている <u>花火大会等のイベント活動</u> 、新規では九州電力エネルギーパーク50周年記念イベントの開催等活動している。 <u>ふるさと納税、観光、EC 外販などなど多方面</u> において地域発信を続けている。	<u>事業者の垣根を越えた連携と、新事業を生み出すアイデアの創出。</u> <u>幅広い年齢層でつながる</u> 事で地域内での柔軟な改革。新規移住者や田舎に興味がある <u>若者をプッシュしているバックアップ体制。</u>	観光という言葉がもうなんか古い感じがする。観光行こう！って今いう人少ないのでは。なじみにくい。 <u>広域観光とかではなく、イメージつきやすいワード</u> が欲しい。	11月11～12日に玄海町を中心とした「エネIKU」という町まるごとエネルギーについて学ぶ <u>体験プログラムがてんこ盛りのイベント</u> を行います。中心は九電産業と地域商社、九電グループ関連会社等の協力を得て開催する大規模イベントとなります。 このイベントは、町内の事業者さんが出来るエネルギーにまつわる体験プログラムをお客さん（5歳～中学生）を対象に行います。 各事業者さんが「エネIKU」企画の要となり玄海町の観光体験を体験者が選んで回遊し遊び学べます。 九重では今年の春に行っており、大変反響が良かったことから、玄海町でも開催してみよう！となりました。 来年は、この <u>体験プログラムの幅を広げて開催出来たら、もっともっと面白い企画になるのでは？</u> と思います。 1事業者ではできないことでも繋げれば大きなものが生まれるきっかけにこの会議がなればと思いました。
団体 B	観光客の集客につながるように <u>HPでの情報発信</u> 。宿泊喚起対策業務として、宿泊予約サイトにて唐津市内の宿泊施設で使える電子クーポンの発行と国内旅行会社に向けた唐津市内宿泊施設への送客実績に応じた <u>助成制度により、商品造成を促進</u> し誘客に繋げている。	<u>お互いの地域のことを知り、情報共有</u> をしておくことで、観光客に次の目的地の提案を行うことができ、お互いの集客に繋がることを期待したい。	従来から課題となっている交通の利便性が良くなることで、 <u>唐津市内にきた観光客の広域観光に繋がること</u> を期待したい。	11月6日から宿泊予約サイトにて <u>唐津市内の宿泊施設で使える電子クーポンの発行</u> が始まります。
団体 C	<u>修学旅行生の受入に関する民泊及び体験</u> を主としている事業者。 その他については、一般団体・個人向けに体験をおこなっている。	滞在時間の延長に伴う <u>周遊プランの策定</u> 。 団体向けの <u>食事場所や体験施設</u> の確保。	トイレの改修(多目的トイレの拡充、洋式トイレの整備) Wifi 環境の整備 観光施設や観光地までの道、交通の整備(バスや車が通る際の本の枝の伐採等) <u>上場ならではの食材を使い名物料理</u> (安くて美味しい)の開発。(一般の人は食べないが漁師だけが食べているもの等、下魚を使って安くて美味しいもの等)	特になし
団体 D	観光関連業の <u>事業所向けセミナーの実施</u> 観光に関する行政との意見交換会の実施 地元の観光資源発掘に向けた現地視察研修の実施	<u>各団体等が保有している有益な情報を共有し、活用できる仕組み</u> の構築 <u>各地域内におけるキーマン的な存在の方々にリーダーシップ</u> をとっていただき、関連する周りの方々を巻き込みながら、様々な会合や事業に取り組んでいただきたい。	周遊性の高い観光ルートとするための <u>魅力ある観光資源のブラッシュアップ</u> や効果的なPR	特にありません
団体 E	地域観光に資する取組として、 <u>毎年各町にて行われるイベントへ出店</u> 。 令和5年度には、 <u>上場地区の名産品である海産物のPRを目的として、ハウス食品とコラボ</u> した「Karatsu Seaside camp in 玄界灘」に出店。	<u>外部に向けた観光資源の情報発信(SNS)</u> 観光客への <u>情報提供(飲食・宿泊所・娯楽等の場所が示されている地図やアプリとの連動)</u> 上場地域で日常生活を送る上で、トラブル等を上場地域内で完結出来るような業者間の連携(生活支援サービス)	ライフライン(インフラ設備)の整備(道路、通信設備等(インターネット)) <u>観光資源の利活用及び整備</u> (名護屋城跡・陣跡、観光案内所を含めた道の駅等の施設の設置) キャッシュレス化の促進(DXへの取り組み推進)	特になし
団体 F	地域の声を反映し、共に支えあいながら、新しい時代の学校教育内容の実践を目指しています。高校が活気づくことで、関係人口の増加や地域の活性化にもつながることが期待されることから、 <u>県外入学生への下宿代としての補助金支援等、町からも色々な協力</u> を頂いています。 <u>「学校・町・地域」三者の定期的な話し合い</u> の場も設けて、高校と町の未来や、新たな可能性を模索中で、今後も多方面からのアイデアを募りたいと思います。	上場地域唯一の高校として、地域に溶け込み、愛される学校でありたいと思っています。 <u>生徒たちが上場地区を舞台に、地域の良さに気づき、時には課題を見つけて問題解決に貢献したりできるきっかけ</u> を求めています。インターンシップや地域のイベントでも大変お世話になっていますが、高校としてはこれまで以上に上場地区の特産物や観光をPRしながら、生徒たちが“母校・故郷”の可能性を感じられるようにしていきたいと模索中です。情報提供をお願いします。	在校生の多数は唐津地区から通学しており、近年は上場地区からの入学志願者が少ない状況です。地元の子供たちにも憧れてもらえる学校であるために、 <u>上場地区の観光や自然を活かした学校の取り組み</u> をPRしていきたいと考えています。また生徒たちが、安心して高校生活を送る上で、学校でも家庭でもない、 <u>上場地区の人との交流の場「第三の居場所」</u> ができると嬉しいです。	今年度から「地域みらい留学」というプラットフォームに参画し、本格的に生徒の全国募集を始めました。本校には学生寮がないため、 <u>玄海町内の民宿や下宿で生徒たちの暮らしをサポート</u> して頂くことになっています。しかしながら、数としてはまだ足りない状況で、県外の生徒を迎える基盤づくりを進めています。お部屋だけ・食事だけ等、端的に協力して頂ける方やアイデアも募集しています。

5 広域観光圏の観光関連事業者が集う共創会議の開催

5-1 共創会議の企画

過年度事業では、共創会議を踏まえて旅行会社とタイアップした広域観光ルートの試行、地元事業者等も交えた広域観光ルートの検証につなげてきた。今年度は広域観光ルートの実践の足掛かりをつくる段階にきていることを踏まえ、呼子エリアで宿泊と洋食を営む「百と十_Vesper」の林康紀氏をゲストスピーカーに招き「上場・呼子で取り組んでいること」、「地域で観光に取り組む意義」等について上場エリアの観光等事業者と意見交換をする場を設けた。

目的	○ 広域観光圏の基本エリアの観光関連事業者が集い、上場地域の広域観光を具体的に進めるための対話機会を創出。対話のきっかけとして、地域内外の事業者の取組み事例を紹介し、共創プロジェクトを通じた滞在時間の延伸・観光消費額の向上へのつなげ方についてアイデアワークショップ等を実施する。
参加者	○ 旧上場 4 町の観光施設・宿泊施設・飲食店・直売所等の物販施設などの事業者 ○ 各種団体（地域商社、観光協会、商工会、商工会青年部） ○ 唐津青翔高等学校 ○ 玄海町（企画商工課） ○ 唐津市（観光文化課） ○ 本田 正明氏【アドバイザー】 ○ 林 康紀 氏【ゲストスピーカー】 ○ A 氏【グラフィックレコーダー】 ○ 九州経済産業局 ○ ランドブレイン株式会社（吉山ほか、社員）【コーディネーター】
実施日 会場	令和 5 年 10 月 25 日（水） 呼子公民館 大会議室 14:00～16:00
プログラム	① 開会あいさつ、共創会議の趣旨・実施内容、参加者等の紹介 本事業の趣旨のほか、参加団体等について説明等を行う ② メイン企画 1 ゲストスピーカーである「百と十_Vesper」林氏によるお話をいただき、その後以下の視点によるクロストークを行った。 ■上場・呼子での観光事業 ・「百と十_Vesper」創業のきっかけは？（移住の経緯、創業の経緯、現店舗の物件について） ・外の視点からみた上場地域、呼子町の魅力 ・「地域で観光に取り組む」こと、そのプロセスで大事なこと ■新しい試み ・素泊まりの宿泊業、カフェ飲食業の意義（地域を楽しんでもらうことを重視、お客様に“パーツ”を選んで滞在してもらう） ・コンテナ観光案内所の役割 ■上場エリアへの展望 ・お客様にもっと楽しんでもらいたい上場地域・呼子町の価値 ・今後生まれたいいいなあと思う、地域の観光活性化の取組み ③ メイン企画 2 ■テーマ：「上場エリアで提供したいサービスや情報のアイデア交換」 メイン企画 1 で意見交換した「上場・呼子での観光事業」、「上場エリアへの展望」等を踏まえ、グループごとにワークショップを実施した。 ④ とりまとめ、アンケート記入など 意見交換した内容等に関するグラフィックレコーディングについて共有 等

令和5年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業

(周辺地域と連携した広域観光ルートの開発による観光流動の活性化に係る調査事業)

「上場の魅力をもっと伝えていきたい！」

「チャレンジを応援しあう仲間がほしい！」

そんな事業者の皆さまのための…

上場広域観光

共創会議

vol. 4
2023.10

を開催させていただきます

令和4年度に開始した「共創会議」。今年も引き続き、観光を通じた地域活性化に取り組まれている事業者の皆さまを対象に、**交流しながら事業に活かせるヒントを発見する場**として開催します！

今回は、『**上場地域での宿泊観光客を増やそう**』を目標に掲げ、上場地域での新たな宿泊・滞在スタイル「**古民家・空き家の活用**」について皆さんと学び、アイデアを膨らませていきます。

開催日時

10月25日(水)

14:00～16:00 (13:30 受付開始)

開催場所

呼子公民館
大会議室



唐津市呼子町
殿ノ浦
750 番地 1

参加対象者

上場地域の宿泊、飲食、交通等事業者（観光関連事業者）



Meeting Topic (当日のメインプログラム)

【企画①】

地域のゲストスピーカーをお招き・「百と十_Vesper」林さん（呼子町）

呼子町に移住し、カフェ・レストラン・ゲストハウスを展開されています。事業や古民家活用のきっかけ、ファンづくりの工夫など、ざっらばんに話を聞かせていただきます。

【企画②】

空き家活用宿で“宿以外”の使い方を考えよう！

共創のプロジェクトとして、空き家を活用した宿泊施設づくりを計画中。空き家でこんなことをやってみたい！というアイデア・意見交換をします。また、空き家活用に参加したい方も募集！

【アドバイザー紹介】

上場地域の更なる観光活性化に向けて、共創会議に参加されるアドバイザーをご紹介します。

本田 正明 氏

九州産業大学 地域共創学部 観光学科 准教授
観光まちづくりを専門とし、**地域の活性化・課題解決を目指すソーシャルビジネスなどのプロジェクトや、学生と地域が連携した問題解決型学習**に取り組んでいます。高齢者福祉と連携した空き家活用、地域資源を活かした商品や体験プログラムの開発などを行っています。

【皆さまへのお願い】

会の冒頭では、1人1言で自己紹介をお願いします。PRしたい商品・サービスなどのチラシ等があれば、ぜひ当日ご持参いただき、自己紹介にご活用ください。



お申込み先・お問い合わせ先

共創会議に関するお問い合わせは、以下メールかFAX、もしくは右のQRコードよりお申し込みください。【申込内容：氏名・所属・電話番号・メールアドレス、参加人数】

玄海町みんなの地域商社（担当：奥村、橘高）

Tel : 0955-51-3007 Fax : 0955-51-3008

E-mail : info@all-genkai.or.jp

申込〆切

10月19日(木)



本事業は、「九州経済産業局」が実施しています。

(周辺地域と連携した広域観光ルートの開発による観光流動の活性化に係る調査事業)

上場
広域
観光

共創会議 NEWS!!

第4回

2023.10.25 共創会議

第4回・上場広域観光共創会議を開催しました！

令和4年度から計4回目となる共創会議を、呼子公民館にて開催しました。上場地域の観光関係者の皆さんをはじめ、29名にご参加いただきました。

メイン企画①では、呼子町で宿泊・飲食業「百と十_Vesper」を営まれる林康紀さんをゲストスピーカーにお招きし、地域が一体となる観光活性化についてお話をいただきました。お店のことからお客さんのニーズ、地域を良くしていきたい！という想いまで。トークだけでなく質問・回答を通じて、参加者一同のモチベーションが高まる時間となりました。



ゲストスピーカートーク・3つのポイント

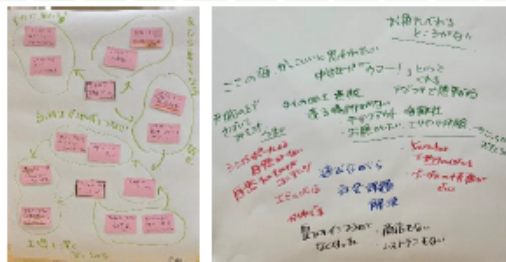
- 1 宿は地域を回る拠点！**
温泉、食事、体験などのパーツを増やし、リピートしたくなる地域を目指す
- 2 自分が住む地域を良くしたい！**
自分が住んで楽しいまちを描き、観光を通じてやれることにトライ
- 3 お客様との対話を大切に！**
地域のことを伝え、地域で魅力的だと思うことを教えてもらう関係・仕掛けづくり

グラフィックレコーディング

ゲストスピーカートークから質疑、ワーク結果まで、リアルタイムで記録！イラストを用いてわかりやすく・楽しくまとめたいただきました。

ワーク「何泊もしたくなる・リピートしたくなる地域になるには？」

メイン企画②では林さんのトークからヒントを得て、**1泊じゃ足りない！何泊もしたくなる、何度も来たくなる、“暮らしの魅力を体験できる上場地域”**として磨き上げるアイデアについて、4つのグループに分かれて意見を出し合いました。



外から来た子どもたちに地元ならではの体験をしてもらう

- 早稲田佐賀中高の生徒さんは、大半が首都圏など地元以外出身者
- 青翔高校も全国から生徒募集を開始
- 子どもたちに地元ならではの遊びや体験をもらい、保護者に「素晴らしい地域で子どもたちが学んでいる」ことを知ってもらう
- バイトをってもらうのも地域を知る方法のひとつ

産地だからこそ、伝えられること

- 食の産地としての魅力で稼ぐことも大事だけど、畜産や漁業、農業のつくり手だから伝えられることがある
- 商売の前に、つくり手・受け手としての関係を構築し、お互いに顔の見える相手になる
- つくり手の紹介は、上場地域のなかで紹介しあうこともできそう

宿泊客に楽しんでほしいことを、地域に視野を広げて発信する

- イカがなくても満足できる食の情報提供（ハンバーグめく等）
- いま、上場地域のほかの町でどんなことが起こっているのかを知らない。お客さんに聞かれても答えられないことがある
- 湾や海、自然がそのままでも価値がある。シンガポールのお客さんが来るが、そもそも自然がないようで、自然体験自体が貴重だと感じる様子

すぐにできること・これから少しずつやっていきたいこと

- 玄海町や他町の事業者で呼び町まちあるき
- 船上で魚を捌いて味噌汁を提供！
- グーグルマップの情報を最新化
- 4町を越えた人材交流。祭りの人材確保も
- 事業者が連携したサービスづくり
- 民泊の拡大（プレミアム1棟貸しなど）
- 地元の魚を食べられる場所（今はない…？）

共創会議参加者の声・今後の展開について

皆さまの声



- 色々なところに顔出しすることも積極的にしていこうと思います。
- 林さんの「自分が住みたいまちづくり」という考えが印象的で参考になりました
- 移住者視点の話を聞くと、改めて上場地域の魅力を感じることができました。
- 上場地域の他地区の方とお話できてよかったです。つながりができました。
- 長く住んでいると良さがわからなくなり、住んでないとわからない良さもあるのが難しい。
- 後半のワーク時間がもっと長ければよかったです。（一部抜粋）

今後の展開



当日はゲストスピーカーの林さんをはじめ、参加者の皆さま一人ひとりで素敵なアイデアをたくさんいただきました。今後、**アイデアを形にする試みを「共創プロジェクト」として近々走り出していきます。**まずは、できることから少しずつ！
またご案内をさせていただきますので、ぜひ参画をよろしくお願いいたします。

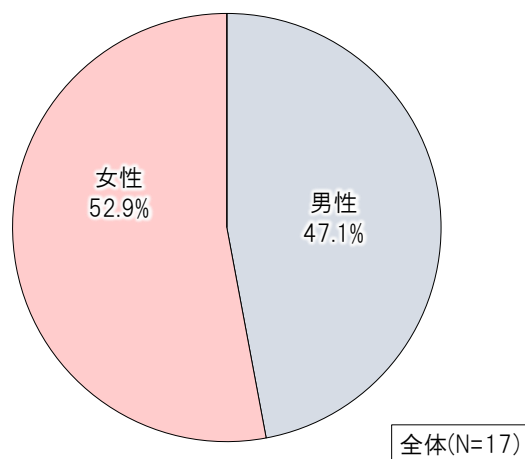
企画・運営 玄海町、唐津市、玄海町みんなの地域商社（支援：ランドブレイン株式会社）
※本事業は九州経済産業局が実施しています。

5-3 参加者アンケート

問1. みなさまについて教えてください。

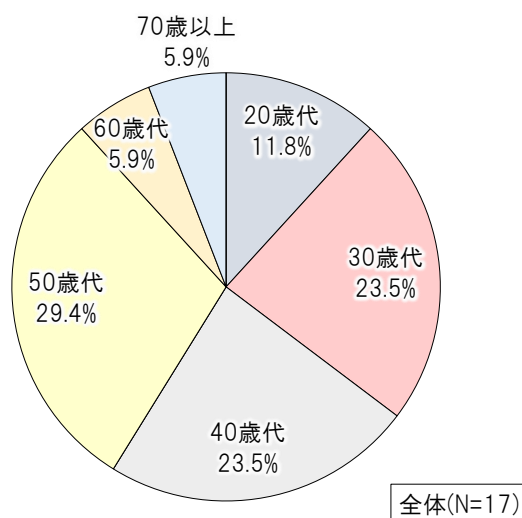
①性別

「男性」が 47.1%、「女性」が 52.9%となっている。



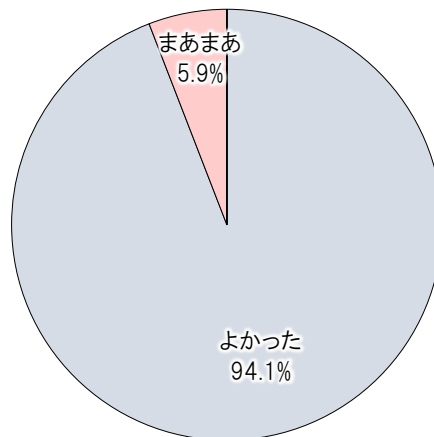
②年齢

「50 歳代」の回答者が 29.4%で最も高い割合となっており、次いで「30 歳代」「40 歳代」が 23.5%、「20 歳代」が 11.8%となっている。



問2. 本日の共創会議はいかがでしたか？

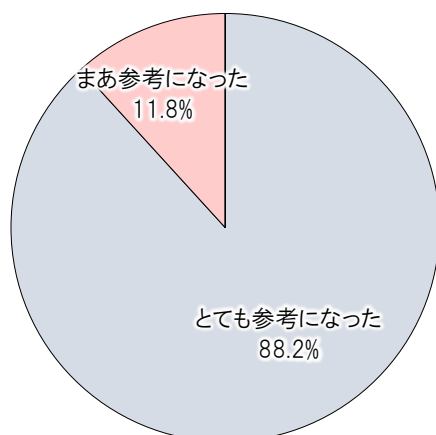
本日の上場広域観光共創会議について、「よかった」が 94.1%と最も高い割合となっており、次いで「まあまあ」が 5.9%となっている。参加者全員が本日の共創会議に参加して好印象を持ったことがうかがえる。



全体(N=17)

問3. 今後の事業や取組みの参考になりそうな気づきはありましたか？

今後の事業や取組みについて、「とても参考になった」が 88.2%で最も高い割合となっており、次いで「まあ参考になった」が 11.8%となっている。今回の共創会議の参加者のうち、全員が今後の事業や取組みの参考になったと回答したことがうかがえる。

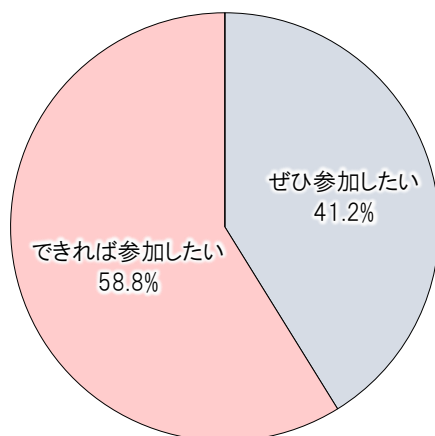


全体(N=17)

年代	性別	具体的に
20歳代	男性	上場地域の観光コンテンツの勉強になった。
40歳代		地域のコンテンツがわかった。
50歳代		地域の方々と一体となって観光や集客につなげていけることが大変参考になった。
70歳代		「〇〇だけじゃない！」の林氏の話。 地元との関係をよくすることは大事。
30歳代	女性	実際に移住させた林さんのお話を聞くことができ、改めて上場地区の魅力を感じることができました。 始めたいこととリンクしている部分がたくさんあったので、詳しくお話しただいてよかったです。 林さんのお話で、自分が住みたい町づくりをしているということ、地域でよくなっていくような取り組みをされているのが印象的で参考になった。

問4. 今後も、上場地域の事業者同士で集まる機会に参加したいと思いますか？

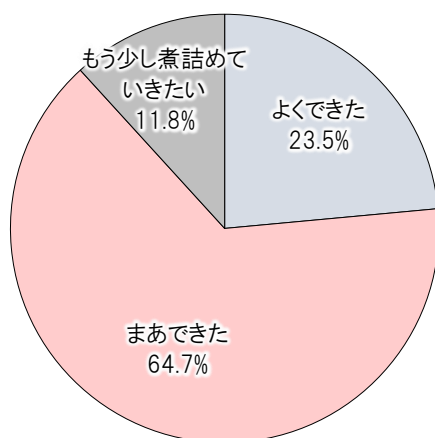
今後もこのような集まりへの参加希望について、「できれば参加したい」が 58.8%で最も高い割合となっており、次いで「ぜひ参加したい」が 41.2%となっている。事業者同士の集まりについて好印象であることがうかがえる。



全体(N=17)

問5. 上場地域で連携した観光活性化に、ご自身が関わっていくイメージができましたか？

ご自身が関わっていくイメージについて、「まあできた」が 64.7%と最も高い割合となっており、次いで「よくできた」が 23.5%、「もう少し煮詰めていきたい」が 11.8%となっている。参加者のうち、約9割が関わっていくイメージができたと回答したことが伺える。



全体(N=17)

本日の感想やお気づきの点(自由記述)

年代	性別	具体的に
20歳代	男性	上場4町で観光を盛り上げていけるようなコンテンツがあるので、うまく活用していけたらと思う。
30歳代		後半のワークショップの時間配分が、もっと多ければよかった。
40歳代		長く住んでいると良さがわからなくなるが、住んでみないとわからないことがあるところが難しい。
50歳代		あらゆるジャンルから参加して頂いた皆様のご意見やアイデアが形になってくると感じることができた。今後の参考にさせて頂きたい。
70歳代		地域が地域のことを知らないこと。地元で当たり前が、当たり前でないこと。連携が必要。
30歳代	女性	対話をする事が必要だと思った。
30歳代		自分の会社のことだけを考えていたところがあり、町全体で考えることがなかったのですが、自分が住みたい町というフレーズが印象に残り考えさせられました。ありがとうございました。
40歳代		輪が広がりますように。
40歳代		参加して知ること・考えることがあり、今後もっと自分にできることをやっていこう！と改めて思います。広い地区での連携もできるよう、いろいろなところに顔出しすることも積極的にしていこうと思います。
50歳代		長年、地域活動、活性化に参画してきて、ゆっくり情報を伝えながら上場での暮らしを楽しみたい。
50歳代		百と十、林さんの考え方に心が動きました。自分が住みたい街にするがキーワード。人とのつながりが大切な時代に改めて感じたので、今回を機にまた、つながりができてよかった。
50歳代		今回のような場に参加するだけで気分がリフレッシュできるほか、たくさんの学びを得ることができるので、大変ありがたい機会を設けていただき感謝します。今後ともよろしくお願いします。
60歳代		上場の他地区の方の話ができてよかった。今後の観光を仕事につなげていきたい。

6 共創プロジェクトの試行

6-1 共創プロジェクトの企画

共創プロジェクトは、共創会議において聞いた「百と十_Vesper」林氏のお話やグループワークで意見交換をする中で、「お客さんに地域のことを知ってほしいのは当然だけど、地元の私たちこそ、上場のことをもっと知るべき」という声を多くいただいたことを踏まえて企画した。企画内容は、インスタグラムの「ショート動画制作勉強会」とし、参加者からの要望があり、計2回実施した。

テーマ	○ インスタグラムでのショート動画による観光情報発信のイロハ
参加者	○ 旧上場4町の観光施設・宿泊施設・飲食店・直売所等の物販施設などの事業者 ○ 玄海町地域おこし協力隊 ○ 山本 瑠美氏 【講師（インスタグラマー）】 ○ 本田 正明氏 【アドバイザー】※第1回のみ ○ 九州経済産業局 ※第1回のみ ○ 玄海町みんなの地域商社 ○ ランドブレイン株式会社（吉山）【コーディネーター】
実施日 会場	第1回：令和6年1月16日（火）14:00～16:00 百と十_Vesper 第2回：令和6年2月19日（月）14:00～16:00 大玄 Café（旅館大玄1階）
プログラム	① 開会あいさつ、共創会議の趣旨・実施内容、参加者等の紹介 本事業の趣旨のほか、参加団体等について説明等を行う ② 企画1 ショート動画の作り方 山本氏の自己紹介後に、座学形式で実施。参加のInstagram等の活用状況や上場地域を舞台にしたサンプル動画を紹介しながら以下のポイントを伝える。 ■ 1本の動画だけでなく、「このアカウントで、何を伝えたいか」を明確にする ・ 1本の動画の反響を得ることが目的ではない。「このアカウントは〇〇を発信します」ということを、プロフィールや1本1本の動画でしっかり伝えること。 ・ 「誰に有益な情報なのか」、ターゲットを意識すること。 ・ この勉強会は「効果的な伝え方」の企画の仕方、それを手伝えるテクニックを紹介するものであること。 ■ 続けることが大事！無理なく続けられる工夫を磨いていく ・ 画像と動画、それぞれに応じたツールを使いこなし、雛型をつくると効率的になる。 ・ ちょっとしたルールを決めてカメラを使うと編集が楽になる（常に縦で撮影するなど）。 ■ 地域が注目されるために ・ 制作者の年代や性別などが違えば、違う視点で発信できてよい◎ ・ 山本さんが注目している地域等 ③ 企画2 撮影実践 講義のポイントをおさらいし、撮影に出かける（店内と店外付近で撮影、完成動画は15秒程度を目安） ④ 企画3 動画編集の実践 ツールの紹介、使い方を、山本さんのスマホをプロジェクターで映しながら実践 ⑤ 動画講評 山本さんから講評（よい点、改善の助言）、参加者がみんなワイワイ言える雰囲気 ⑥ まとめ・お知らせ・アンケート記入 参加者からの告知、津屋崎視察の共有（第1回）、アンケート記入 等

令和5年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業

（周辺地域と連携した広域観光ルートの開発による観光流動の活性化に係る調査事業）

上場広域観光
共創会議から
生まれた
プロジェクト！

上場広域観光を広めていこう



ショート動画制作勉強会

を開催させていただきます

令和5年10月25日に開催した共創会議では、上場地域の観光活性化に取り組まれている事業者の皆さまにご参加をいただきました。

当日、呼子町で飲食・宿泊業「百と十_Vesper」を営む林さんのお話を聞いたり、グループワークで意見交換をするなかで、「**お客さんに地域のことを知ってほしいのは当然だけど、地元の私たちこそ、上場のことをもっと知らないとい！**」という声をたくさんの方からいただきました。

そこで、お客さんにも、**地元で頑張る皆さまにもメリットのある、「地元発・ショート動画での情報発信」を地域全体で力を入れていきたい！**と考えております。

関心のある皆さまには、ふるってご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

開催日時

令和 **6** 年 **1** 月 **16** 日（火）

14:00～16:00（13:30 受付開始）

開催場所

百と十_Vesper

呼子町呼子

1960-2



参加対象者

- 上場地域の観光事業者で、Instagramでの発信に関心のある方
- Instagramで上場地域の観光情報の発信をしていきたい方

What to Learn（当日のメインプログラム）

インスタグラマーから学ぶ！ 「伝えたい」の発信にショート動画を 活用しよう！

今回の勉強会には、専業でインスタグラマーをされている山本瑠美先生を講師に迎えて開催します！

動画制作で大事なことは、「伝えたいことが、伝えたい人に、伝わること」。そのために、アカウントの運用の仕方、動画の企画、撮影、編集にどんな工夫をしたらよいか、テクニックやおすすめツールも含めてみんなで一緒に学びましょう！



【講師紹介】山本瑠美さん

Instagramにて福岡近郊の観光スポットを毎日発信。フォロワー数は現在 8.7 万人、親子で遊びに行けるスポットやグルメ情報等に焦点を当てた発信が人気を集めています！



830
投稿

8.7万
フォロワー

841
フォロー中

山本瑠美さんの
Instagram

ルミルミ：福岡発おでかけ情報

rumirumidayo

＼＼行きたい福岡近郊スポットが見つかる！／／

★福岡から1泊2日のおしゃれ旅プラン

★ファミリーで楽しめる週末イベント

★観光とセットで行きたいグルメ情報

※ご依頼、ご相談はメールorDMにて



お申込み先・お問い合わせ先

共創会議に関するお問い合わせは、以下メールかFAX、もしくは右のQRコードよりお申し込みください。【申込内容：氏名・所属・電話番号・メールアドレス、参加人数】

玄海町みんなの地域商社（担当：奥村、橘高）

Tel : 0955-51-3007 Fax : 0955-51-3008

E-mail : info@all-genkai.or.jp

申込〆切

1月11日（木）



本事業は、「九州経済産業局」が実施しています。

令和5年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業

（周辺地域と連携した広域観光ルートの開発による観光流動の活性化に係る調査事業）

上場広域観光を広めていこう 

ショート動画制作勉強会（第2回）

を開催させていただきます

令和6年1月19日に開催した「ショート動画勉強会」は、上場地域各地の事業者さまにお集まりいただき、大盛況となりました。

勉強会后、早速学んだことを活かしてInstagramにおける動画発信に取り組み、スキルアップを実感している方が多数おられます！

好評を受け、下記の通り第2回勉強会を開催することになりましたのでご案内します。**発信に取り組んでいる方だからこそ感じている、具体的な悩みを解消できる場**にしたいと考えております。

関心のある皆さまには、ふるってご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

開催日時

令和 **6** 年 **2** 月 **19** 日（月）
14:00～16:00（13:45 受付開始）

開催場所

大玄 Cafe
玄海町今村
4853-1
旅館大玄 1F



参加対象者

- 上場地域の観光について、Instagramで発信をしている方
- 1月の勉強会の参加し、さらなるスキルアップを目指したい方

What to Learn（当日のメインプログラム）

インスタグラマーから学ぶ！ 「伝えたい」の発信にショート動画を 活用しよう！

今回の勉強会にも、専業でインスタグラマーをされている山本瑠美先生を講師に迎えて開催します！

「発信していて悩みがある…」という方大歓迎。あなたの悩みは、みんながぶつかる悩みです。これからやりたいことも共有しあって、助け合っていきましょう！



【講師紹介】山本瑠美さん

Instagramにて福岡近郊の観光スポットを毎日発信。フォロワー数は現在8.7万人、親子で遊びに行けるスポットやグルメ情報等に焦点を当てた発信が人気を集めています！



830 投稿
8.7万 フォロワー
841 フォロー中

山本瑠美さんの
Instagram

ルミルミ：福岡発おでかけ情報

rumirumidayo

- \\ 行きたい福岡近郊スポットが見つかる！ //
- ★福岡から1泊2日のおしゃれ旅プラン
- ★ファミリーで楽しめる週末イベント
- ★観光とセットで行きたいグルメ情報
- ※ご依頼、ご相談はメールorDMにて



お申込み先・お問い合わせ先

共創会議に関するお問い合わせは、以下メールかFAX、もしくは右のQRコードよりお申し込みください。【申込内容：氏名・所属・電話番号・メールアドレス、参加人数】

玄海町みんなの地域商社（担当：奥村、橘高）

Tel : 0955-51-3007 Fax : 0955-51-3008

E-mail : info@all-genkai.or.jp

申込〆切

2月15日（木）



本事業は、「九州経済産業局」が実施しています。

6-2 実施報告

■まとめニュース

(周辺地域と連携した広域観光ルートの開発による観光流動の活性化に係る調査事業)

上場
広域
観光

共創プロジェクト NEWS!!

2024.01.16/02.19 開催分

ショート動画制作勉強会を開催しました！

令和6年1月16日・2月19日に開催したInstagramでのショート動画制作の勉強会は、「共創会議」から生まれた活動「共創プロジェクト」として企画をしました。きっかけは、共創会議での「お客さんに地域のことを知ってもらうために、地元の私たちも上場のことをもっと知ろう！」という皆さんの声でした。

当日は上場地域各地より事業者の皆さまにお集まりいただき、講師のルミルミさん(@rumirumidayo)より、今日から実践できる動画制作・発信のコツを伝授いただきました。



ふりかえり・動画制作の3つのポイント

1

「一番の見どころ(ハイライト)」で始める！

最初の1秒で「見るかどうか」が判断される！動画のハイライトから始まるように編集しよう。興味を惹くタイトルも重要！

2

最後まで見たくなる・反応したくなる「企画」！

動画制作は「企画」。最後まで見たくなる内容と構成、反応(いいね、コメント、シェア、保存)したくなる要素を大切に。

※何秒見られたかは、「インサイト機能」から確認できます◎

3

見る人の視点に立った「撮影・編集」！

撮影するときは水平を保つ、明るさを確保する。編集するときは1カットを短くしてテンポよく。撮影時点から、編集を見据えて引き気味で撮る、テロップを入れる場所を意識するとGood！

お店・事業所の魅力を紹介しよう！

商品づくりの風景や工夫などの「裏側」は、運営側の皆さんだけができる強み！

また、勉強会に参加したメンバーのお店・事業所を紹介しあう動画をつくれると◎。外側からみた魅力を教え合いながら、今後の事業に役立てていってくださいね。



勉強会参加者の声・今後の展開について

参加者の声／



- 事業者間の交流、とても事業に役に立つ勉強会、分かりやすい内容で大満足でした！
- 良いモノ、良い場所が沢山あるけど、アピールが出来てない事も観光が伸びない要因だと思うので積極的にSNSを活用していこうと思います。それと同時に、観光に来てお金を落とす所が少ないので呼び込んだ先の目的も含めて玄海町の発展に貢献していきたいです。
- 観光客が呼子に来てからきちんと情報が取れるような場所作りをしたい。
- 沢山のの方に上場の良さを知っていただきたいです。(一部抜粋)

今後の展開／



講義と実践練習の学びを活かして、Instagramを使う人々が上場地域の魅力を発見する機会をどんどん増やしていきましょう！

また、皆さまが前進するための場をこれからも企画していきます。やってみたいことは、玄海町みんなの地域商社へアイデアをください！

#上場観光
の発信を増やして
いきましょう！

企画・運営 玄海町、唐津市、玄海町みんなの地域商社(支援：ランドブレイン株式会社)

※本事業は九州経済産業局が実施しています。

■当日の様子

第1回は計20名の事業者（女性16名、男性4名）、第2回は計22名の事業者（女性19名、男性3名）が参加した。

（第1回）



（第2回）



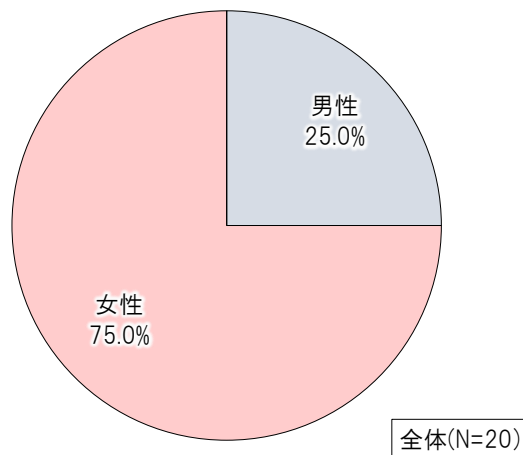
6-3 参加者アンケート

■第1回

問1. みなさまについて教えてください。

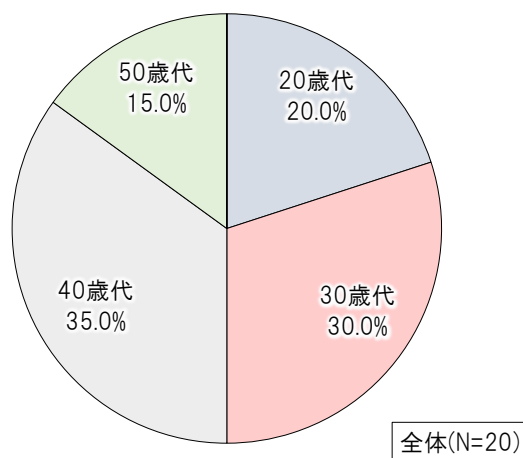
①性別

「男性」が 25.0%、「女性」が 75.0%となっている。



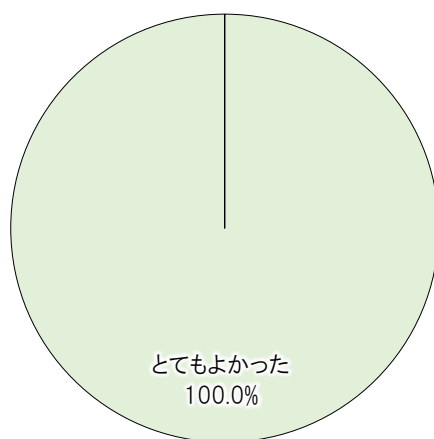
②年齢

「40 歳代」が 35.0%で最も高い割合となっており、次いで「30 歳代」が 30.0%、「20 歳代」が 20.0%、「50 歳代」が 15.0%となっている。



問2. 本日の勉強会はいかがでしたか？

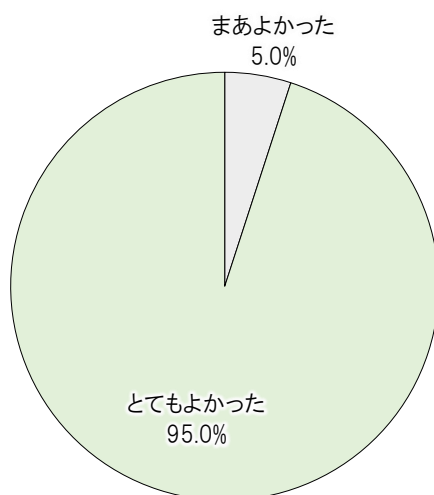
「とてもよかった」が 100%となっており、参加者全員が勉強会に参加して好印象を持ったことがうかがえる。



全体(N=20)

①勉強会のテーマ

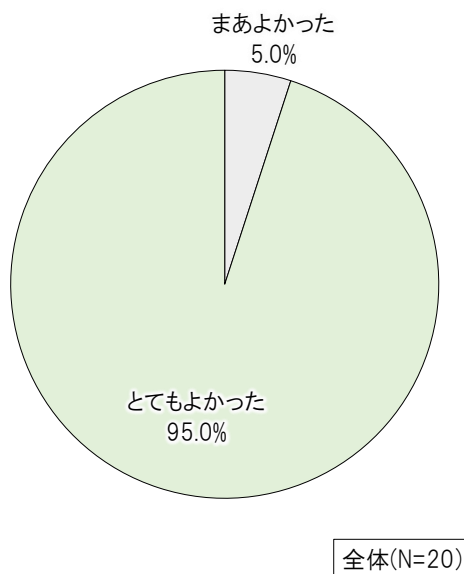
「とてもよかった」が 95.0%、「まあよかった」が 5.0%となっている。



全体(N=20)

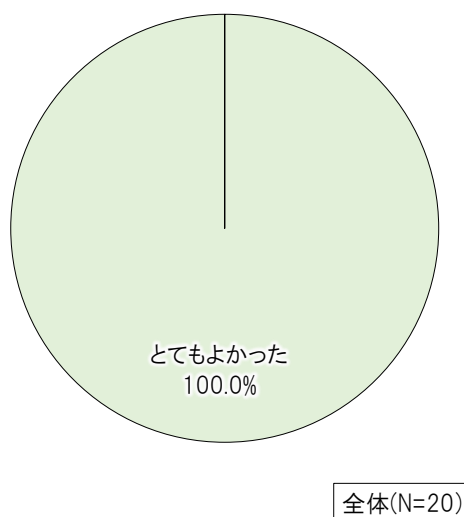
②座学講義の内容

「とてもよかった」が 95.0%、「まあよかった」が 5.0%となっている。



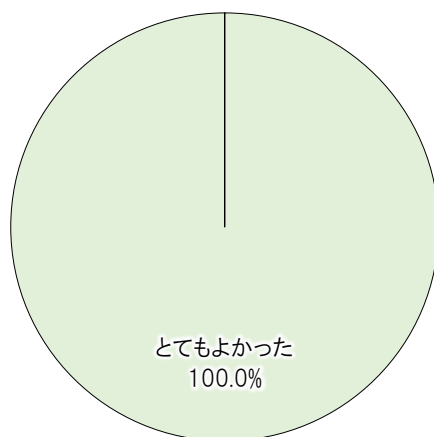
③実践講義の内容

「とてもよかった」が 100.0%となっている。



④会場・会場の雰囲気

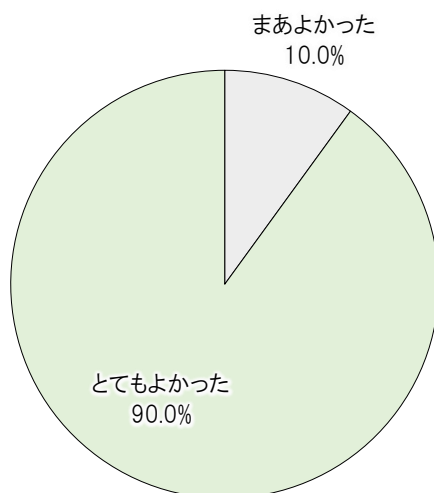
「とてもよかった」が 100.0%となっている。



全体(N=20)

⑤他の参加者

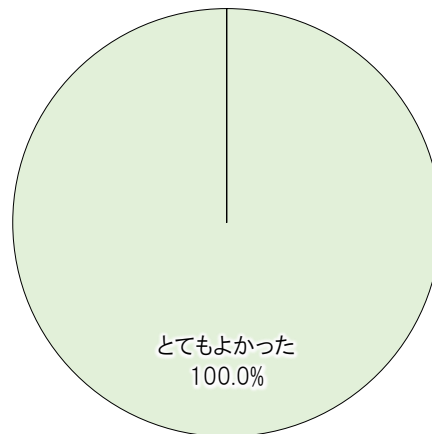
「とてもよかった」が 90.0%、「まあよかった」が 10.0%となっている。



全体(N=20)

⑥講師(山本瑠美さん)

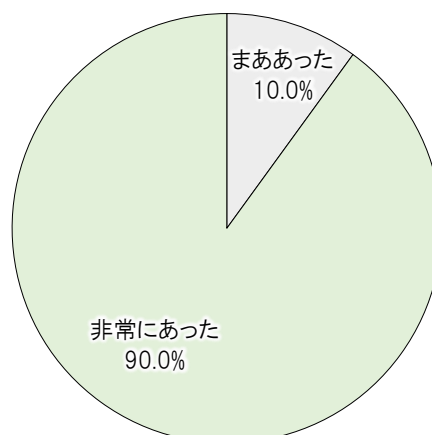
「とてもよかった」が100.0%となっている。



全体(N=20)

問3. ご自身の仕事・活動に役立つ部分がありましたか。

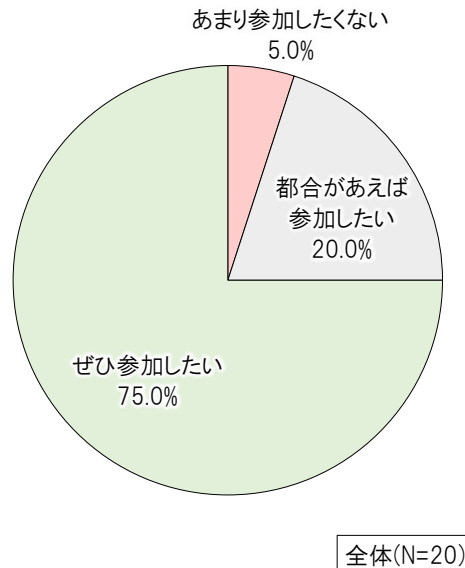
「非常にあった」が90.0%、「まああった」が10.0%となっており、参加者全員が仕事・活動に役立つと実感できたことがうかがえる。



全体(N=20)

問4. 今後も、上場地域の事業者同士で集まる機会に参加したいと思いますか？

「ぜひ参加したい」が 75.0%で最も高い割合となっており、次いで「都合があれば参加したい」が 20.0%、「あまり参加したくない」は 5.0%となっている。事業者同士の集まりについて全体的に好印象であることがうかがえる。



問5. 今後、観光に関連してどのような活動に力を入れていきたいですか。

年代	性別	自由記述
50歳代	男性	観光客が呼子に来てからきちんと情報が取れるような場所作り。観光案内所のような。
20歳代	女性	沢山の方に上場の良さを知っていただきたいです
30歳代		インスタ等でお店の情報を載せて行きたいです。
		良いモノ、良い場所が沢山あるけど、アピールが出来てない事も観光が伸びない要因だと思うので積極的にSNSを活用していこうと思います。それと同時に、観光に来てお金を落とす所が少ないので呼び込んだ先の目的も含めて玄海町の発展に貢献していきたいです。
		玄海町をみんなに知っていただきたいです。
40歳代		観光 人を繋ぐ
		上場地区のPR
		情報発信
		出来ることを出来るだけやりたいと思います
		地産商品の販売
50歳代		地域活性化に向けた活動

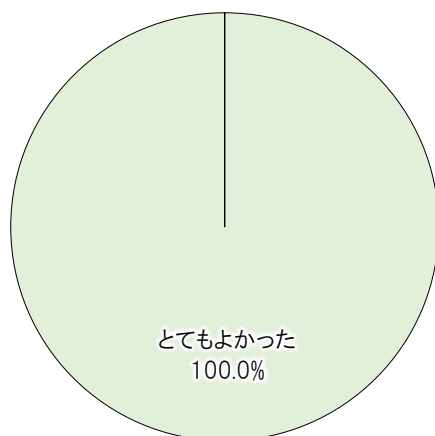
本日の感想やお気づきの点(自由記述)

年代	性別	自由記述
20歳代	男性	ためになりました。
50歳代		講義が分かりやすく、とても勉強になりました。 動画を編集してSNSにあげたことがなかったのですが、編集した方が魅力的に伝わるのだ なと改めて感動しました！
20歳代	女性	本日はありがとうございました。とても勉強になる会で参加させていただいて良かった です。
30歳代		難しい所もありましたが、少しずつ慣れて行きたいと思います。
40歳代		是非現地で参加したかったのですが、特別にzoomを繋いでいただきありがたかったで す。座学だけではなく実践が出来る講座になっていたのもとても良かったと思います。
40歳代		今日の講座をも一度していただきたい。
50歳代		良い経験になりました。ありがとうございます 事業者間の交流、とても事業に役に立つ勉強会、分かりやすい内容で大満足でした！ 動画を撮ることがあまり無いので、参加して良かったです 資料も盛りだくさんで、大変参考になりました。帰ってからまた勉強させてもらいま す。

■第2回

問1. 今日の勉強会はいかがでしたか。

「とてもよかった」が 100%となっており、参加者全員が勉強会に参加して好印象を持ったこと
がうかがえる。



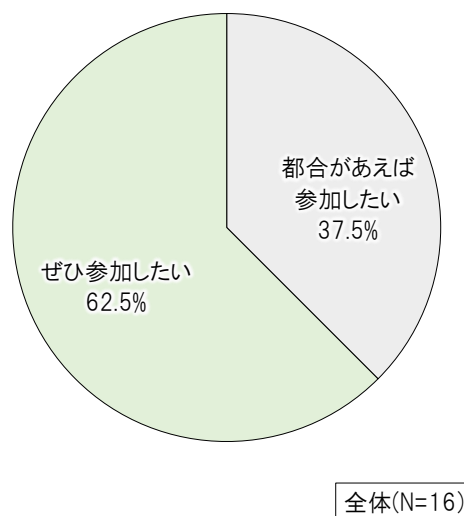
全体(N=16)

問2. 動画の制作・情報発信について、もっと知りたいことや学びたいことを、なんでもご記入ください。

自由記述
実践あるのみなのでもっと動画編集します
今回のような講習会をもっと増やしてもらえるとありがたいです！
いかに興味のある動画の見せ方ができるかもっと使ってみようと思いました。
Instagramの使い方から勉強したいです^^;
インスタのテクニック
業種別のバズらせポイント
SNSの有効な活用法をもっと学びたい
Canvaとの併用
今回、初めての参加でしたが、とてもためになりました。商社のスタッフさん、ルミルミ先生、本日はどうも有り難うございます。また、SNSセミナーを開いて欲しいです。
基礎から教えてほしい
手探りの中、動画編集を学ぶ機会をありがとうございます、慣れるように回数をこなして行きたいとおもいます。
ストーリーズのあげ方も興味あります
物や風景の上手な(映える)撮影の仕方
是非又宜しくお願いします。
どんなコンテンツがバズるのか
Instagramを今日開設したばかりなので、皆さんについて行くだけです。後ろから必死に追いかけている状態でノーアイデアですが、今後ともよろしくお願いします！

問 3. またこのような上場の事業者が集う勉強交流会が開催されるとき、参加したいですか。

「ぜひ参加したい」が 62.5 %で最も高い割合となっており、次いで「都合があれば参加したい」が 37.5%となっている。事業者同士の集まりについて全体的に好印象であることがうかがえる。



問5. 今後、観光に関連してどのような活動に力を入れていきたいですか。

自由記述
SNSの活用方法、POP講習
もっと時間を使って勉強したいです！
初心者からの勉強会があったら嬉しいです！
上場全体でSNSでお互い宣伝し合うことをしたいです。
今回のようなSNS関連の勉強会にはまた参加したいと思います。
やっぱりSNS発信を詳しく知りたい
玄海パッションを語る会・聞く会みたいなの、ほしいです。
第3回SNSセミナーを開いて欲しいです。
わからない言葉が多いので基礎から教えてほしい
今回のように、行ってみたいけど行けてない管内の店舗がかなりあるので、お客様に勧められるように知りたい
スタッフ、バイト教育
カメラや写真に詳しい方と一緒に写真の撮り方などを学びながら、うわばを歩き回りたい
んー、思いつかないです！
もう少し、時間長くてもよし
地元なのに知らない事が多いので、色々な事業者さんと繋がるために、事業者同士の交流が深まるような内容で研修をお願いしたいです。今回の大玄カフェも、できたということは風の噂に聞いていたけれども、初めて来る事ができ、親しみが湧きました。

6-4 実施結果のポイント

事業者の発意にもとづく 取組みの企画	● 共創プロジェクトのテーマは、共創会議の対談やワークで挙げられた事業者の意見・アイデアがもとになっている。 ● 事業者にとっては、自らの声が形になったことにより、事業への関心や主体感が生まれるきっかけにつながった。
地域商社が「活動の中核」、 事業者が「活動の主役」と なる取組みの実践	● 本プロジェクトは事業者自身の行動を促す（自ら動画を制作し、発信する）ものである。 ● 地域商社が自らのネットワークや関連団体と連携しながら集客を行い、当日の場づくりや事後のフォローアップの中心となったことで、本プロジェクト自体が民間主体の広域観光体制に向かう機会となった。
次なる展開につながりやすい、 取組みの成長の展望	● 動画制作・発信は「発信し続けるためのコンテンツづくり・磨き上げ」や「観光客が魅力的に思う地域の価値の発掘」など、次なる活動につながりやすいという利点がある。 ● また、本プロジェクトを通じて事業者間・事業者と地域商社のネットワークが強化され、新たな活動が生まれやすい関係が構築された。

7 広域観光圏の魅力の情報発信方法・推進体制の検討

7-1 セールスツールの作成・営業活動の試行

上場地域に個人で来てくれる旅行客の獲得を目指すため、まずは来てくれる旅行客の母数を増やすことが必要である。今年度は、上場地域に団体旅行を誘致し、旅行ツアーを積極的に誘致することを目的に、旅行会社への営業を行うためのツールを作成した。

ツールの作成にあたっては、広域検討会での意見をもとに、「即時商品化が可能なもの」かつ「旅行会社にとって必要な情報を反映する」ことを重点とした。株式会社読売旅行へのヒアリングを行った上で必要な情報を整理し、営業ツールのフォーマットを作成した。

今後、地域でのプログラムの企画等で随時プログラム数を増やしていくことを前提に、今年度は3つのプログラムをツールとして整理した。

■セールスツール作成の目的（再確認）

目的

個人の旅行客を増やしていくことが大きな目標。まずは多くの人に訪れてもらうため、団体ツアーを積極的に呼び込む。セールスツールは、**団体ツアーの誘致に向けて、地域商社などが旅行会社への営業に使用することを目的として作成する。**

【広域検討会での意見】

- 一般的なパンフレットではない、**ツールを基に即時商品化が可能なもの**になると良い。
- **旅行会社が必要としている情報等を把握して、ツールに反映できると良い。**
- **個人旅行につながる**ように、団体ツアーの後の**戦略**を持って作成できると良い。

■読売旅行へのヒアリングの概要

日時：2024/01/18（木）

読売旅行

玄海町みんなの地域商社：奥村氏、橋高氏

ランドブレイン：吉山、廣中

<団体ツアーについて>

- 個人で行くことのできる場所や、できる体験を足し置いたツアーであれば、わざわざ団体ツアーに参加する人は少ない。ツアーに参加しないとできない体験や、行けない場所、食べられない料理にツアーの魅力がある。
- 日帰り旅行では、屋食に何を食べるのかが重要。ツアーの食事については、飲食店と交渉して独自のメニューや盛り付けにこだわる人が多い。
⇒1人2千円～5千円程度が屋食代にかけるとの予算感。
- 宿泊を含めるのであれば、玄海町だけでなく、唐津等の宿泊施設と連携する等が良いのでは。
- 玄海町でのツアーは、パレアやうわば停を基軸に、エネルギーパークの植物園等も良いのでは。
- 旅行業務取扱管理者の資格を持っていないと、ツアーの企画で料金は取れない。
⇒お土産として、商社の売的商品（浜野浦の棚田米など）を持たせるのは可能。
（可能であれば定価以下が好ましい。）

<営業ツールについて>

- 九州に詳しくない会社への営業にはモデルコースの記載があれば良い。
- 一般的な日帰り旅行は、ツアー代金が最大1万5千円程度に収まる金額でないと客が集まりにくい。
- ひかりのみちDMO福津の営業シートが、旅行会社にとって100点満点だった。
⇒地域の事業者と調整済でプログラム化されており、各プログラムの金額感（1,000～2,000円程度）が妥当。

<地域側の動き方について>

- 地域側がツアー組成の営業に来ることは少ない。（補助金等がある時に来るほうが多く、旅行会社としてもその方が良い）
- ツアーの下見などを代わりに行ってくれると良い。地域のコンシェルジュとして、ツアーの企画を手伝ってくれる人が地域にいとツアーを作りやすい。

■団体ツアー誘致のポイント

- ① **事業者と調整済で、プログラム化された状態**であると、スムーズにツアーを組成できる。
- ② **地元側で地域のコンシェルジュとして、企画のサポートをしてくれると企画しやすい。**
- ③ **金額感は1つのプログラムで1,000円～2,000円程度。**

2

■セールスツール作成の方向性

- 上場地域で提供可能な**体験コンテンツを創出・ストックし、セールスツールとして活用**する。
- 体験プログラムは、地域のイベント（エネIKU等）で試行⇒改善、団体ツアー受入れ⇒改善のステップを踏むことで、**個人客へも提供可能なコンテンツ化を目指す**。
- **地域商社が旅行会社と事業者の間に入ることで、地域全体のマネジメント**を行う。
（例：巡るルートに合わせて出店、ツアーのお土産品に旬の地域産品の情報提供、など）



企画した体験プログラムは、エネIKU等のイベントで積極的に試行してみる。

<（参考）エネIKU in 玄海・唐津>

- ✓ 日帰りの体験プログラム
- ✓ イベントに向けて、玄海・唐津の事業者と調整し、企画している。
- ✓ 参加費：1 体験500～1,000円程度に抑えている。
- ✓ エネルギーパークを中心に、主に玄海町内でのプログラムを企画 → 今後、上場地域へ広がる可能性
- ✓ 九電産業旅行部を中心に企画

「エネiku」のイベントチラシ

■セールスツールの記載内容イメージ

タイトル

< ツアー内容 >

プログラムの概要が分かる説明文。

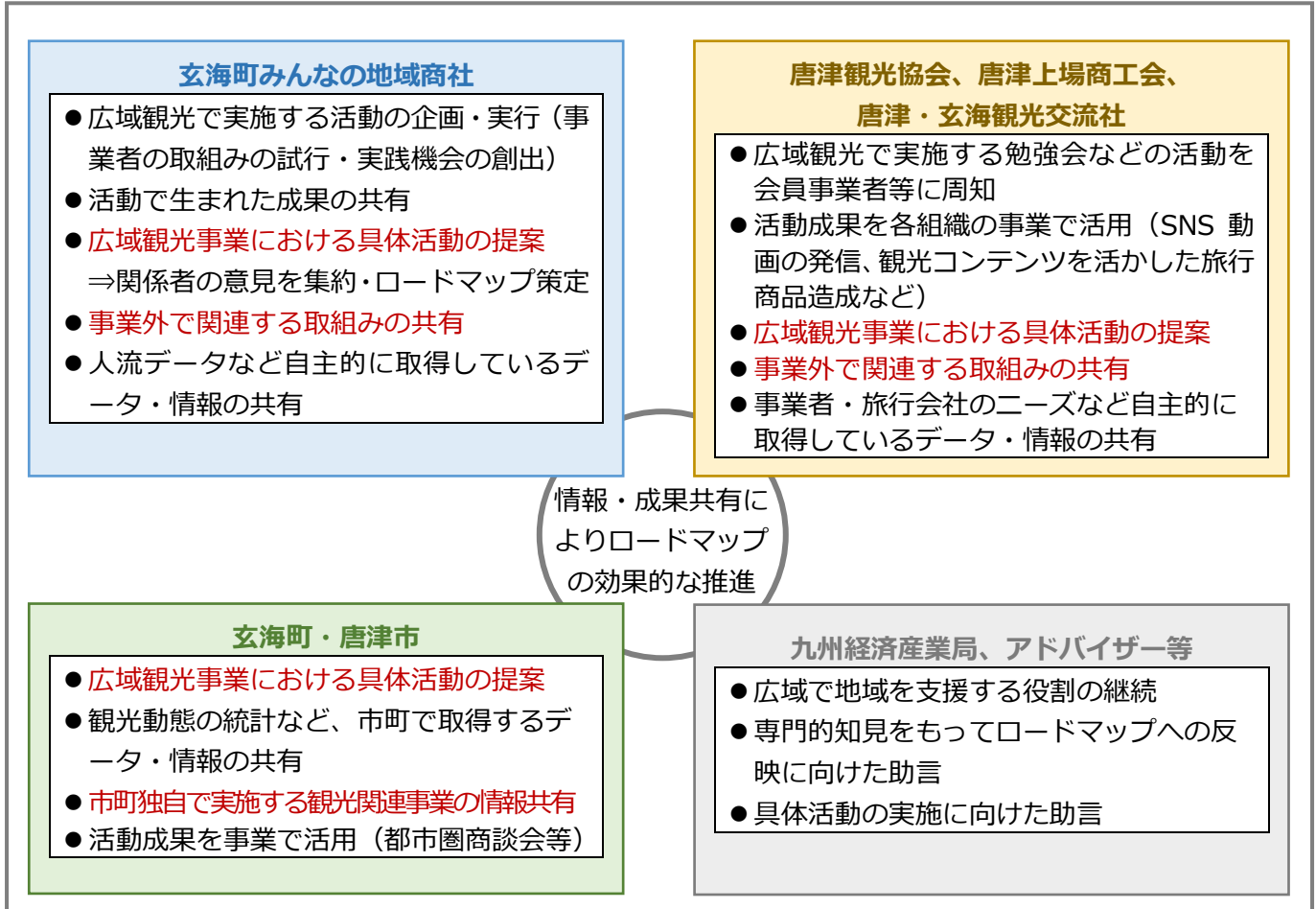
1人当たり料金	お1人 ○○円程度（税込み）
特典	何を持って帰れるか。
スケジュール	どこからどこへ移動するか⇒
所用時間	○時間
催行人数	最大○名、最小○名
予約	玄海町みんなの地域商社
条件	手仕舞いは○日前
お支払い方法	玄海町みんなの地域商社より請求書

企画のイメージができる写真

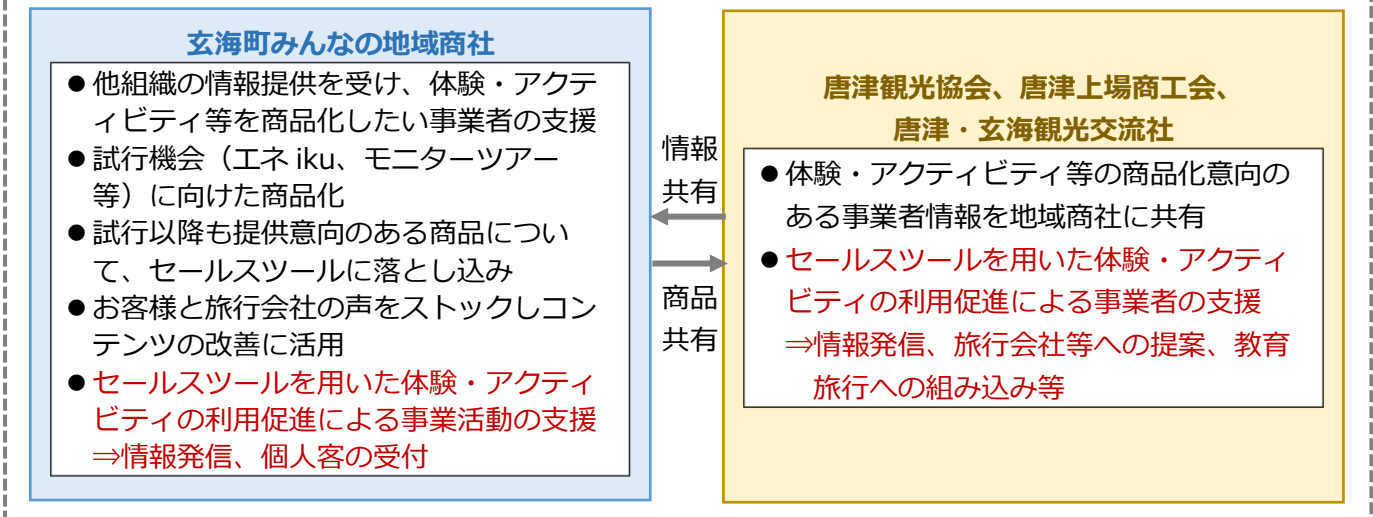
- ✓ 事前に事業者と、金額や催行人数、条件などについて合意を取っておく。
- ✓ 予約や支払いの際に、**地域商社が旅行会社と事業者の間に入る**ことで、地域全体のツアー動向を把握し、地域の情報提供や、ツアーに合わせた出店等を行うことができる体制とする。

7-2 広域観光の推進体制の検討

上場地域の広域観光の推進にあたり、玄海町みんなの地域商社が事業活動の企画・実行の中核を担うとともに、中間支援組織（唐津観光協会、唐津上場商工会、唐津・玄海観光交流社）および行政（玄海町・唐津市）と効果的な役割分担や定期的な情報共有を行うなどで連携を図ることにより、民間主導による広域観光の推進を図る。それぞれの役割のイメージを以下に示す。



【具体イメージ例】観光コンテンツの造成・磨き上げ・利用促進



7-3 広域観光圏の魅力の情報発信

上場地域の魅力発信については、①玄海町みんなの地域商社が核となり、事業者等が主体となる情報発信を促進する、②事業者の取組を観光コンテンツとしてセールスツールに落とし込み、中間支援組織・行政が発信する、の2点の方針を整理した。本事業においては、共創プロジェクトを通じて①を実践するとともに、②のセールスツールイメージを作成した（「7-1 セールスツールの作成・営業活動の試行」参照）。

8 日本の地方における広域観光の先進事例調査

8-1 先進事例調査の企画

先進事例調査は、福岡県福津市津屋崎において「人を基軸とした地域づくりの取り組み方」、「地域としてのチームのつくり方」、「津屋崎ならではの“都市にはない魅力”」を学ぶことを目的に津屋崎で地域づくりプロジェクト、空き家の利活用等に取り組むB氏と取り組みのポイントに関する意見交換を行った。

テーマ	○ ソトの人々を惹きつける、住民に魅力ある地域づくり
調査の視点 狙い	○ 人を基軸とした地域づくりの取り組み方・地域としてのチームのつくり方、津屋崎ならではの“都市にはない魅力” ○ 津屋崎はクリエイターの移住が進んでいる。活動を始めて20年ほどになり、2世代目、3世代目がまちづくりの中心になっている。地域のいいものを残しながら新しい人を受け入れていく取り組みを、現地で学ぶことが狙い。上場でも、外から来られる方との付き合いのきっかけとして観光があると考え、観光を目的としない津屋崎の取り組みプロセスから上場に活かす。
視察対象 概要 ポイント	■概要 ○ 「津屋崎ランチ」からはじまった地域づくりプロジェクト。移住を見据えた、地域に高い関心を持っている人々には、「暮らしの旅」として港町で暮らす旅、津屋崎子育て体験の旅、町並み保存と活性化を学ぶ旅など、津屋崎での生活を体験し、地域の方と交流、対話の場を作りもてなしている。 ○ B氏は空き家の活用から地域の魅力づくりにアプローチし、コミュニティ支援に従事している。 ■ポイント ○ 共創会議でゲストスピーカーに招いた移住者の林氏からも、「自分の住みたいと思えるまちづくりに、観光の面からアプローチする」という発言があった。 ○ 津屋崎ランチ設立者ではなく、移住者であり活動の担い手であるB氏に話を伺うことで、ソトの人々の惹きつけ方、持続的な地域づくり・地域内連携のあり方のヒントを得たい。
参加者	○ B氏【講師】 ○ 玄海町みんなの地域商社（佐藤氏、奥村氏、橘高氏） ○ 大方 優子氏【アドバイザー】 ○ 本田 正明氏【アドバイザー】 ○ ランドブレイン株式会社（吉山、廣中）【コーディネーター】
実施日 会場	令和5年12月8日（金）13:20～15:30 福岡県福津市（津屋崎ランチ事務所など）
行程	13:20 「津屋崎なごみ」駐車場集合（福津市津屋崎3丁目17番3号） 13:30 津屋崎ランチ事務所にてB氏よりレクチャー 14:30 運営施設紹介など、津屋崎千軒まちあるき 15:00 意見交換 15:30 視察終了

8-2 視察のポイント、意見交換の内容

ポイント	● 「地域が豊かになるサイクル」は<u>プレイヤーが誰かを明確にし、その役割は具体的であるほどよい</u>。上場地域においては、<u>地域商社がいることは大きな強み</u>であり、広域観光でどのような役割を担うとよいか、誰にでもわかるように具体化できるとよい。 ● 視察を行った津屋崎千軒や、呼子の朝市通りのように、<u>顔が見える距離感のチームは取り組みやすい</u>。共創会議の参加者は上場の各地域から来ていただいたが、<u>参加者が各地域の動きを把握する小チームのリーダー</u>となり、地域商社が上場地域全体に共有していく役割を担えるとよい。<u>事業者とともに活動することが地域商社にとって当たり前になると</u>、民間主体の広域観光の推進も円滑になるのではないかと。
------	---

9 中期活動方針

9-1 令和6年度以降の活動方針・計画

R2:玄海町行政の取組方針の検討

【成果】

広域観光のコンセプトとロードマップを検討し、**玄海町役場としての広域観光への取組方針を設定**できた。



R3:広域連携の推進体制づくり

【成果】

唐津市や関連団体との連携を開始。体験コンテンツの掘り起こしと旅行会社等との連携により、**広域観光のモデルルートを設定**できた。
なお、広域観光ルートの試行を通じてつながった株式会社読売旅行は、**民間自主事業としてバスツアーを催行、地域に新たに1,000名以上の送客が実現した。**



R4:地域商社の取組領域の拡大

【成果】

上場広域観光ガイドブックを制作する地域商社のネットワークを活かして共創会議を開催。**地元事業者が本事業に参画する機会を創出し、事業者ベースの広域観光の検討や意識醸成を図ることができた。**



R5:中間支援組織の連携体制構築

【成果】

地域商社が取組みの企画・実行の中核に。地元事業者を対象とした観光動画制作の勉強会には、**延べ60名以上が参加**。また、**体験コンテンツ等を販促するセールスツールの充実を図ることとした。**



広域観光の定着に向けて

- 令和2～5年度は行政主導の第一フェーズとしてきた。令和4～5年度は**民間との連携領域を徐々に拡大し、民間主体の広域観光の活性化に向けた活動検討**を進めた。令和5年度は共創プロジェクトを通じて、地元事業者の事業への参画を飛躍的に拡大させることができた。
- 段階的に成長してきた**地域の成果を实らせるためには、玄海町みんなの地域商社が核となった「民間主導の事業継続の基盤づくり」が不可欠**である。国の支援を有効活用した以下の取組みを実施し、令和6～8年度の3ヵ年で広域観光の定着を目指す。

R6:観光コンテンツの試行・磨き上げ

【ありたい姿】

事業者が主体となる観光コンテンツの磨き上げが進んでいる。

【取組み内容】

- ① 体験・アクティビティの実践モニターツアー（大学生・高校生が参加し撮影→情報発信につなげる）
 - ② 専門家による事業改善アドバイス（物販ディスプレイなど）
 - ③ 共創会議の開催（情報発信など、事業者のビジネスに役立つ学びと相互交流の場：毎年度1回以上）
 - ④ 広域検討会の開催（官民の関係組織・助言役が集い情報の共有・成果の共有等：毎年度3回程度）
 - ⑤ 中核機能のビジネスモデルの検討（玄海町・地域商社などコアメンバーで検討：適宜協議）
- ※上場の観光事業者による情報発信、リーダー事業者と地域商社の集い（①②の具体内容的検討：適宜開催）

R7:個人旅行における「上場」の認知促進

【ありたい姿】

観光コンテンツと提供する事業者を軸とした発信・認知が拡大している。

【取組み内容】

- ① 地域商社が窓口になり体験・アクティビティの販売をサイクル化
- ② インフルエンサーを招聘したツアーを催行し情報発信を増加

R8:民主導の広域観光モデルの確立

【ありたい姿】

地域商社が核となり、広域観光の自立継続領域が確立している。

【取組み内容】

- ① 体験・アクティビティと宿泊をセットにしたプランを造成し販売
- ② 上場ファンづくりの獲得・育成に向けた企画やイベントの開催

R9～:広域観光体制の自走化

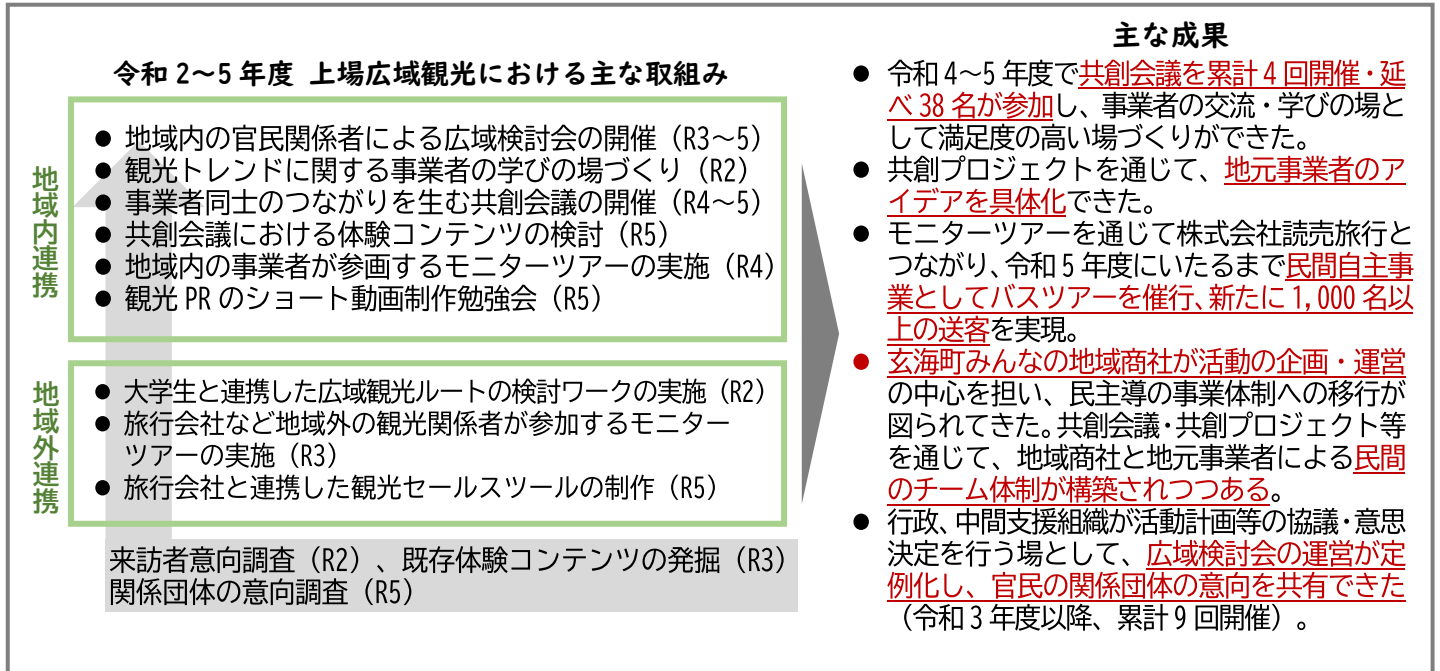
【ありたい姿】

- 体験・アクティビティを利用する観光客の増加
- 観光客自らによる上場観光の発信が拡大
⇒**事業者の間で広域観光のメリットの理解が広がり、更なる機運向上につながっている。**
- 地域商社を中心に行政・域内の中間支援組織の連携体制が確立
⇒**事業者の成長につながる共創会議や、エリア戦略を推進する広域検討会など場・機会が有機的に開催されている。**

R9～も地域で継続

9-2 令和6年度において取り組むべき重点事項

令和2～5年度の成果を踏まえ、次年度以降の広域観光の推進に向けた重点事項を以下に示す。



広域観光の
定着に向けて

- 令和2～5年度は行政主導の第一フェーズとしてきた。令和4～5年度は民間との連携領域を徐々に拡大し、民間主体の広域観光の活性化に向けた活動検討を進めた。令和5年度は共創プロジェクトを通じて、地元事業者発意での企画実現と上場エリア内の新たな事業者参加につながった。
- 段階的に成長してきた地域の成果を实らせるためには、玄海町みんなの地域商社が核となった「民間主導の事業継続の基盤づくり」が不可欠である。国の支援を有効活用した以下の取組みを実施し、令和6～8年度の3カ年で広域観光の定着を目指す。

令和6年度以降の重点事項

- (1) 玄海町みんなの地域商社が中核となる、中間支援組織・行政等が連携した推進体制の強化
 - 玄海町みんなの地域商社をはじめとする各中間支援組織や、玄海町・唐津市の行政もそれぞれに強みがある。各団体の取組み状況や成果を定期的に共有する場を設け、地域一丸となった広域観光の成果創出を目指すことが重要である。
 - また、玄海町みんなの地域商社が、民間主導の体制下での中核となり広域観光の推進を継続できるよう、事業補助終了後の収益確保の方法について、行政と検討を進める必要がある。
- (2) 事業者の成長につながる観光コンテンツの磨き上げ・情報発信の促進
 - 民間主導の広域観光は、観光を通じた事業者のビジネスの成長を支援するものである。令和5年度の共創プロジェクトを皮切りに、体験などの観光コンテンツの磨き上げなど事業者が主体となり、年度を重ねるごとにステップアップできる活動を企画することが求められている。
 - また、地域商社が核となり、旅行会社と連携したツアー造成（情報発信）など、地域の認知を高めポテンシャルを引き上げる取組みを起こしていくことが重要である。
- (3) 「上場広域観光」が浸透するネットワークの構築
 - 事業者においても広域観光の意識醸成が進みつつある背景には、事業者同士、事業者と地域商社のネットワークを着実に築いてきたことにある。引き続き集まる場を創出し、顔の見える関係づくりをおこなっていくことが重要である。
 - また、事業者が広域観光に参画するメリットを明確にしつつ、地域として目指す姿が事業者にも共有・共感されるよう、わかりやすい表現、興味を引く活動名称などを意識する。